

# 結果の概要

## I 人口

### 1 全国の人口

令和2年10月1日現在における我が国の人口は1億2,614万6千人となっており、平成27年に比べ、人口は94万9千人減少しています。

人口を男女別にみると、男性は6,135万人、女性は6,479万7千人となり、女性が男性より344万7千人多く、人口性比は94.7となっています。

国際連合の推計によると、令和2年の世界の人口(年央推計)は77億95百万人で、各国の人口をみると、中国が14億39百万人と最も多く、次いでインド(13億80百万人)、アメリカ(3億31百万人)と続いており、我が国の人口は世界で11番目となっています。また、平成27年～令和2年の人口増減率をみると、人口上位20か国の中で減少となっている国は日本のみです。

全国1,719市町村について、令和2年時点の境域で5年間の人口の増減をみると、人口が増加したのは298市町村で、全体の17.3%を占めています。一方、人口が減少したのは1,419市町村で、全体の82.5%を占めています。特に5%以上人口が減少した市町村は全体の51.3%を占め、半数を超えています。

### 2 青森県の人口の状況

令和2年10月1日現在の確定した人口は123万7,984人となっており、平成27年と比べ、人口は7万281人減少しています。

人口を男女別にみると、男性は58万3,402人、女性は65万4,582人となり、女性が男性より7万1,180人多くなっています。

平成27年～令和2年の人口増加率を市町村別にみると、六戸町が0.2%、おいらせ町が0.2%と2町で増加となっています。一方、人口減少率をみると、風間浦村の17.2%減が最も大きく、次いで佐井村の16.8%減、今別町の15.3%減などとなっています。

### 3 当市の人口の状況

当市の人口は、令和2年10月1日現在で223,415人であり、平成27年と比較して、7,842人(3.4%)減少しました。平成12年の調査以来、人口減少が続いています。

男女別人口は、男性が106,818人、女性が116,597人で、女性が男性を9,779人上回っています。平成27年と比較して、男性は3,675人(3.3%)減少、女性は4,167人(3.5%)減少し、人口性比は、91.6となりました。

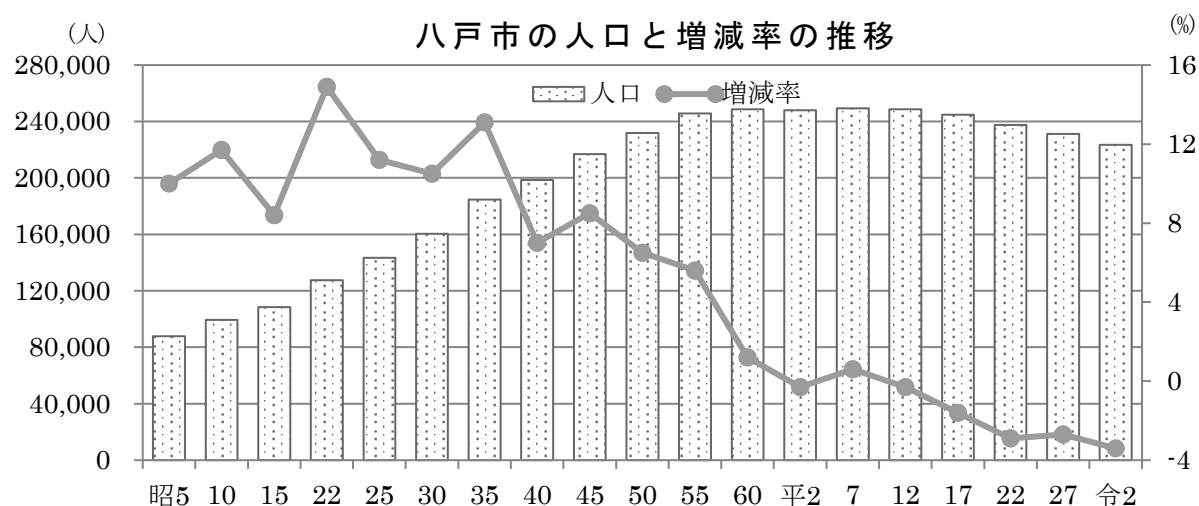
人口密度は、市域305.56km<sup>2</sup>に対して、1km<sup>2</sup>当たり731.2人で、平成27年と比較して25.7人減少しました。また、人口集中地区(50.23km<sup>2</sup>)の人口密度は、1km<sup>2</sup>当たり3,130.7人で144.3人減少しました。

#### 4 当市の人口の推移

当市の人口は、市制施行直後の昭和5年から60年まで増加を続け、特に昭和15年から35年にかけて周辺地域の合併や、市政の進展と共に大幅な増加を示しましたが、昭和45年以降は徐々に増減率が縮小していきました。そして、平成2年には人口が708人減少し、増減率が-0.3%と初めてマイナスを示しました。

平成7年には、1,375人増加し、増減率が0.6%とプラスに転じたものの、再度減少し、平成12年調査では750人、平成17年調査では3,908人、平成22年調査では7,085人、平成27年調査では6,358人、今回の令和2年調査では7,842人の減少となり、増減率は-3.4%となりました。

男女別の人口推移をみると、男性は、平成2年に増減率が-0.3%となり、平成7年には一時増加しましたが、平成12年以降は再び減少が続いています。女性は、平成12年に増減率が-0.3%となってから減少が続いています。



#### 国勢調査による人口の推移

年次	人口			対前回国勢調査						人口性比 (女=100)
	総数	男	女	総数		男		女		
				増減数	増減率(%)	増減数	増減率(%)	増減数	増減率(%)	
昭和 5	87,724	43,453	44,271	-	-	-	-	-	-	98.2
10	99,322	49,625	49,697	11,598	11.7	6,172	12.4	5,426	10.9	99.9
15	108,450	54,934	53,516	9,128	8.4	5,309	9.7	3,819	7.1	102.6
22	127,469	62,602	64,867	19,019	14.9	7,668	12.2	11,351	17.5	96.5
25	143,489	72,238	71,251	16,020	11.2	9,636	13.3	6,384	9.0	101.4
30	160,412	78,719	81,693	16,923	10.5	6,481	8.2	10,442	12.8	96.4
35	184,680	92,839	91,841	24,268	13.1	14,120	15.2	10,148	11.0	101.1
40	198,602	98,413	100,189	13,922	7.0	5,574	5.7	8,348	8.3	98.2
45	216,955	106,374	110,581	18,353	8.5	7,961	7.5	10,392	9.4	96.2
50	231,945	113,413	118,532	14,990	6.5	7,039	6.2	7,951	6.7	95.7
55	245,617	120,304	125,313	13,672	5.6	6,891	5.7	6,781	5.4	96.0
60	248,691	121,007	127,684	3,074	1.2	703	0.6	2,371	1.9	94.8
平成 2	247,983	119,935	128,048	△ 708	△ 0.3	△ 1,072	△ 0.9	364	0.3	93.7
7	249,358	120,502	128,856	1,375	0.6	567	0.5	808	0.6	93.5
12	248,608	120,165	128,443	△ 750	△ 0.3	△ 337	△ 0.3	△ 413	△ 0.3	93.6
17	244,700	117,446	127,254	△ 3,908	△ 1.6	△ 2,719	△ 2.3	△ 1,189	△ 0.9	92.3
22	237,615	113,340	124,275	△ 7,085	△ 2.9	△ 4,106	△ 3.5	△ 2,979	△ 2.3	91.2
27	231,257	110,493	120,764	△ 6,358	△ 2.7	△ 2,847	△ 2.5	△ 3,511	△ 2.8	91.5
令和 2	223,415	106,818	116,597	△ 7,842	△ 3.4	△ 3,675	△ 3.3	△ 4,167	△ 3.5	91.6

## 5 人口規模

県内における当市の人口規模は、青森市の 275,192 人(4.3%減)に次いで第2位(順位の変動なし)であり、以下、市部では、弘前市 168,466 人(5.0%減)、十和田市 60,378 人(4.8%減)、むつ市、五所川原市、三沢市、黒石市、つがる市、平川市の順です。

東北地方での人口規模は、仙台市 1,096,704 人(1.3%増)、いわき市 332,931 人(4.9%減)、郡山市 327,692 人(2.3%減)、秋田市 307,672 人(2.6%減)、盛岡市 289,731 人(2.7%減)、福島市 282,693 人(3.9%増)、青森市 275,192 人(4.3%減)、山形市 247,590 人(2.5%減)に次いで、当市は全 77 都市※のうち第9位(順位の変動なし)となっています。

また、全国では、東京都特別区部を含む市部 793 都市※のうち第 105 位(5位ダウン)です。

※令和2年 10 月 1 日現在

### 青森県内市部における人口規模

順位		市	令和2年人口			平成27年人口	増減(令和2年-平成27年)	
東北	全国		総数	男	女		実数	率(%)
7	77	青森市	275,192	128,049	147,143	287,648	△ 12,456	△ 4.3
<b>9</b>	<b>105</b>	<b>八戸市</b>	<b>223,415</b>	<b>106,818</b>	<b>116,597</b>	<b>231,257</b>	<b>△ 7,842</b>	<b>△ 3.4</b>
10	140	弘前市	168,466	77,251	91,215	177,411	△ 8,945	△ 5.0
32	427	十和田市	60,378	28,685	31,693	63,429	△ 3,051	△ 4.8
37	474	むつ市	54,103	26,104	27,999	58,493	△ 4,390	△ 7.5
41	488	五所川原市	51,415	23,252	28,163	55,181	△ 3,766	△ 6.8
49	617	三沢市	39,152	19,602	19,550	40,196	△ 1,044	△ 2.6
62	709	黒石市	31,946	14,789	17,157	34,284	△ 2,338	△ 6.8
64	730	つがる市	30,934	14,363	16,571	33,316	△ 2,382	△ 7.1
65	734	平川市	30,567	14,188	16,379	32,106	△ 1,539	△ 4.8

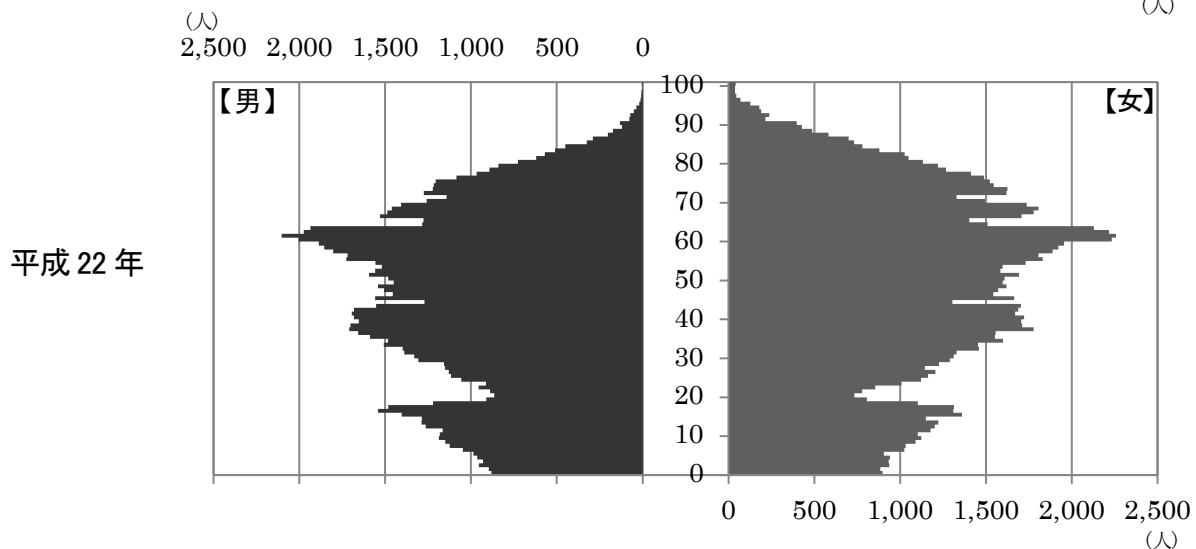
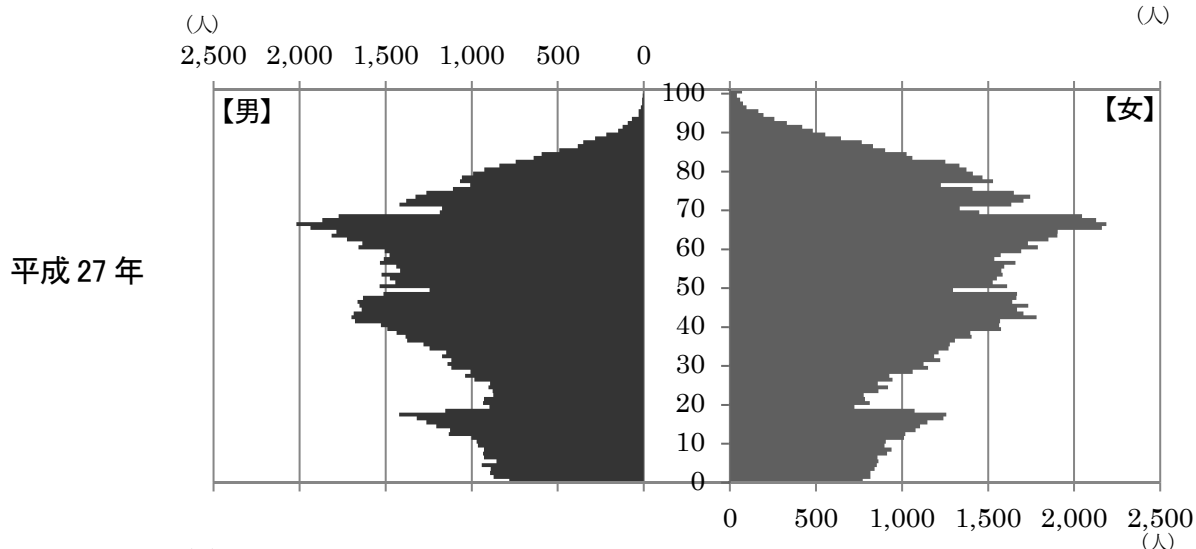
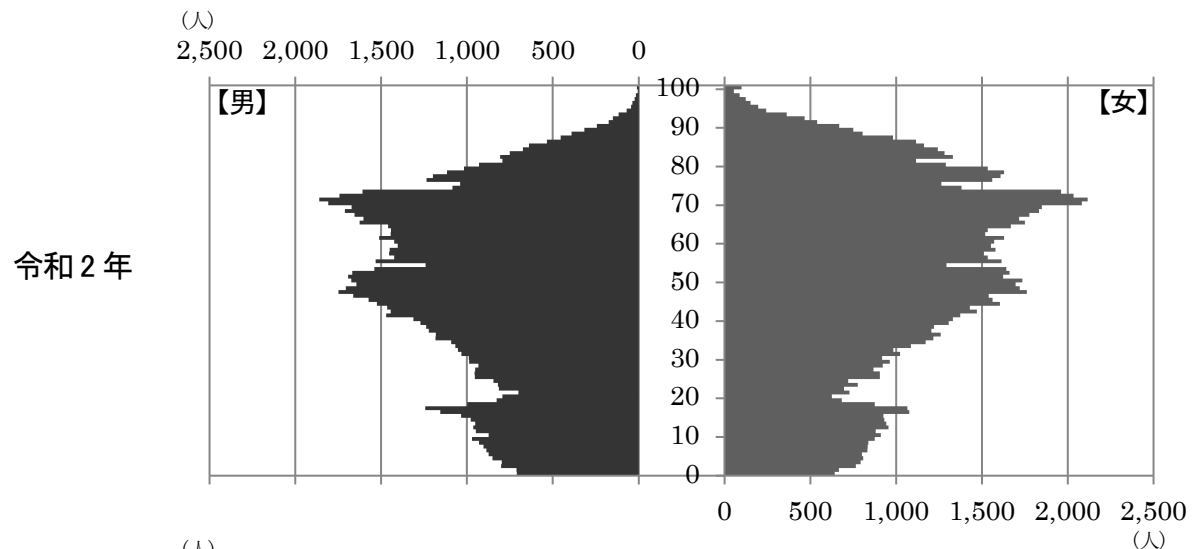
### 東北地方における人口規模(上位 10 都市)

順位		市	令和2年人口			平成27年人口	増減(令和2年-平成27年)	
東北	全国		総数	男	女		実数	率(%)
1	12	仙台市	1,096,704	531,617	565,087	1,082,159	14,545	1.3
2	63	いわき市	332,931	163,525	169,406	350,237	△ 17,306	△ 4.9
3	66	郡山市	327,692	161,830	165,862	335,444	△ 7,752	△ 2.3
4	70	秋田市	307,672	145,411	162,261	315,814	△ 8,142	△ 2.6
5	74	盛岡市	289,731	136,919	152,812	297,631	△ 7,900	△ 2.7
6	76	福島市	282,693	138,190	144,503	294,247	△ 11,554	△ 3.9
7	77	青森市	275,192	128,049	147,143	287,648	△ 12,456	△ 4.3
8	91	山形市	247,590	119,001	128,589	253,832	△ 6,242	△ 2.5
<b>9</b>	<b>105</b>	<b>八戸市</b>	<b>223,415</b>	<b>106,818</b>	<b>116,597</b>	<b>231,257</b>	<b>△ 7,842</b>	<b>△ 3.4</b>
10	140	弘前市	168,466	77,251	91,215	177,411	△ 8,945	△ 5.0

## 6 年齢別・男女別人口

### (1) 人口ピラミッド

当市の人口ピラミッドの形状は、第一次ベビーブーム(昭和 22～24 年生)と第二次ベビーブーム(昭和 46～49 年生)さらに平成 10～12 年生を頂点とした変形のひょうたん型から逆三角形に近い形へと推移してきております。



## (2) 年齢3区分別人口

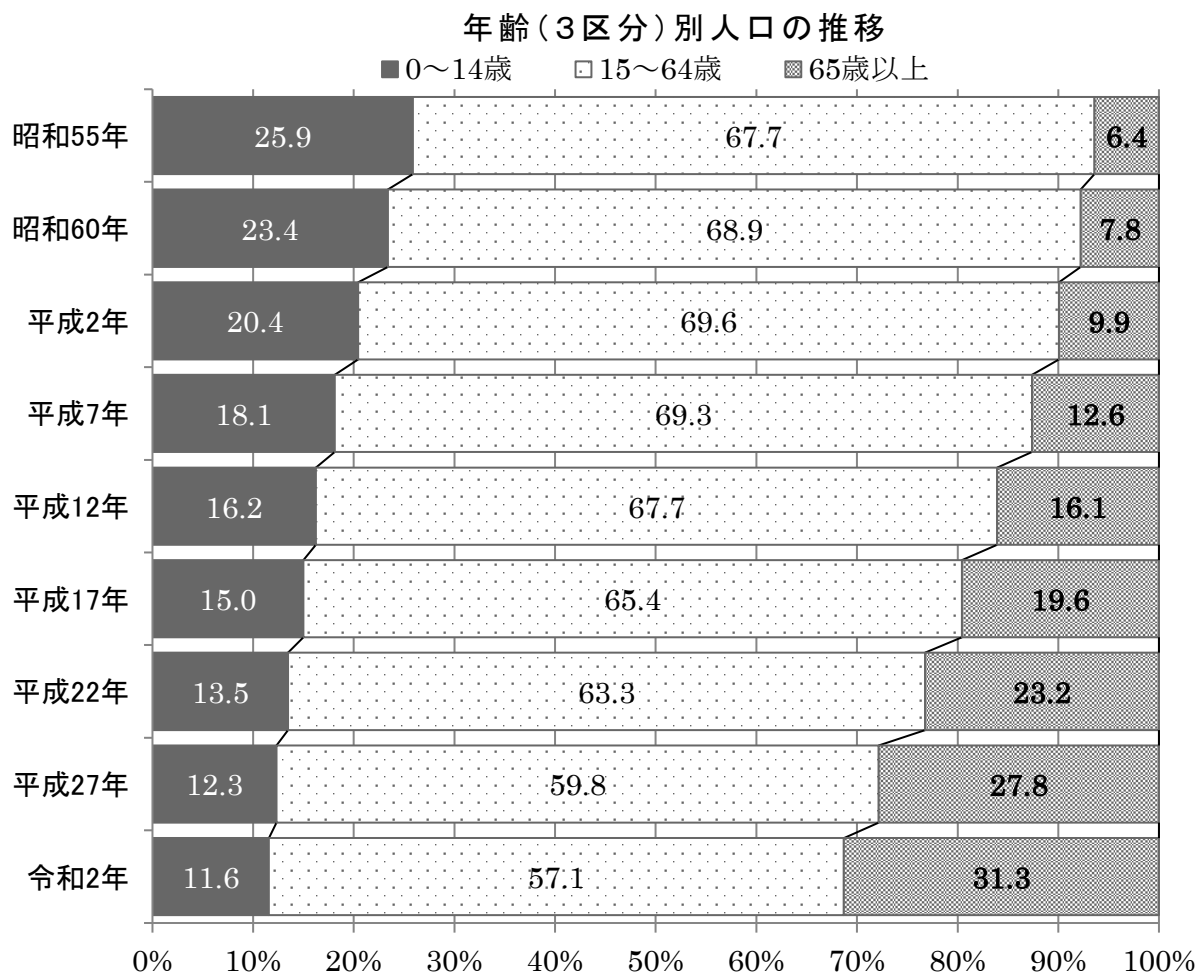
人口を年齢3区分別にみると、0～14歳の年少人口は25,636人(構成比11.6%)、15～64歳の生産年齢人口は126,567人(57.1%)、65歳以上の老年人口は69,328人(31.3%)となっています。

これを平成27年と比較すると、年少人口は2,486人(0.8%)減少、生産年齢人口も10,145人(3.2%)減少しているのに対して、老年人口は5,714人(3.2%)増加しています。

また、平成22年からの10年間で比較すると、年少人口が6,290人(2.0%)の減少、生産年齢人口が23,275人(6.6%)の減少を示していますが、老年人口は、14,298人(7.8%)の増加を示しており、年少人口、生産年齢人口の減少と反比例するかのように老年人口が増加しています。

次に、年齢構成指数を平成27年調査と比較すると、年少人口指数<sup>※1</sup>は20.6から20.3に低下し、老年人口指数<sup>※2</sup>は46.5から54.8に増加しています。

また、老年化指数<sup>※3</sup>をみると、226.2から270.4に上昇しており、少子高齢化が進行してきているといえます。



※年齢「不詳」を除いて算出

※1: 年少人口指数(生産年齢人口に対する年少人口の割合) = 年少人口/生産年齢人口 × 100

※2: 老年人口指数(生産年齢人口に対する老年人口の割合) = 老年人口/生産年齢人口 × 100

※3: 老年化指数(年少人口に対する老年人口の割合) = 老年人口/年少人口 × 100

### 年齢(3区分)別・男女別人口 増減表

区分	令和2年			平成27年			平成22年		
	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女
<b>総数</b>	<b>223,415</b>	<b>106,818</b>	<b>116,597</b>	231,257	110,493	120,764	237,615	113,340	124,275
年少人口	25,636	13,155	12,481	28,122	14,433	13,689	31,926	16,302	15,624
生産年齢人口	126,567	63,266	63,301	136,712	67,816	68,896	149,842	73,916	75,926
老年人口	69,328	29,160	40,168	63,614	26,596	37,018	55,030	22,684	32,346
不詳	1,884	1,237	647	2,809	1,648	1,161	817	438	379
年少人口指数	20.3	20.8	19.7	20.6	21.3	19.9	21.3	22.1	20.6
老年人口指数	54.8	46.1	63.5	46.5	39.2	53.7	36.7	30.7	42.6
老年化指数	270.4	221.7	321.8	226.2	184.3	270.4	172.4	139.1	207.0

区分	令和2-27年 増減			平成27-22年 増減			令和2-22年 増減		
	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女
<b>総数</b>	<b>△ 7,842</b>	<b>△ 3,675</b>	<b>△ 4,167</b>	△ 6,358	△ 2,847	△ 3,511	△ 14,200	△ 6,522	△ 7,678
年少人口	△ 2,486	△ 1,278	△ 1,208	△ 3,804	△ 1,869	△ 1,935	△ 6,290	△ 3,147	△ 3,143
生産年齢人口	△ 10,145	△ 4,550	△ 5,595	△ 13,130	△ 6,100	△ 7,030	△ 23,275	△ 10,650	△ 12,625
老年人口	5,714	2,564	3,150	8,584	3,912	4,672	14,298	6,476	7,822
不詳	△ 925	△ 411	△ 514	1,992	1,210	782	1,067	799	268
年少人口指数	△ 0.3	△ 0.5	△ 0.2	△ 0.7	△ 0.8	△ 0.7	△ 1.1	△ 1.3	△ 0.9
老年人口指数	8.2	6.9	9.7	9.8	8.5	11.1	18.1	15.4	20.9
老年化指数	44.2	37.4	51.4	53.8	45.1	63.4	98.1	82.5	114.8

### 年齢(3区分)別・男女別人口構成比 増減表

区分	令和2年			平成27年			平成22年		
	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女
年少人口	11.5	12.3	10.7	12.3	13.3	11.4	13.5	14.4	12.6
生産年齢人口	56.7	59.2	54.3	59.8	62.3	57.6	63.3	65.5	61.3
老年人口	31.0	27.3	34.5	27.8	24.4	31.0	23.2	20.1	26.1

区分	令和2-27年 増減(%)			平成27-22年 増減(%)			令和2-22年 増減(%)		
	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女
年少人口	△ 0.8	△ 0.9	△ 0.7	△ 1.2	△ 1.2	△ 1.2	△ 2.0	△ 2.1	△ 1.9
生産年齢人口	△ 3.2	△ 3.1	△ 3.3	△ 3.4	△ 3.2	△ 3.7	△ 6.6	△ 6.2	△ 7.0
老年人口	3.2	2.9	3.5	4.6	4.3	4.8	7.8	7.2	8.3

※年齢「不詳」を除いて算出

### (3) 年齢(5歳階級)別にみた年齢3区分別人口

5歳階級別の人口を平成27年調査と比較すると、0～44歳の9階級と55～69歳の3階級で人口が減少しており、0～14歳までの年少人口では全ての階級で人口が減少しています。

15～64歳までの生産年齢人口も年々減少していますが、5歳階級別にみると45～54歳の2階級で若干増加しており、その他の階級では減少しています。

老年人口は毎調査ごとに増加していますが、65～69歳の階級において初めて減少に転じました。

次に、15～29歳及び40～54歳の6階級について、10年前の平成22年調査からの推移をみてみます(右表中の①～⑥)。

①～③をみると、①平成22年調査時に5～9歳の人口は10,670人、10年後の令和2年では15～19歳で9,887人となり、783人の減少、同様に②平成22年の10～14歳は12,037人、令和2年では20～24歳で7,525人となり、4,512人の減少、③平成22年の15～19歳は12,454人、令和2年では25～29歳で9,351人となり、3,103人減少しています。

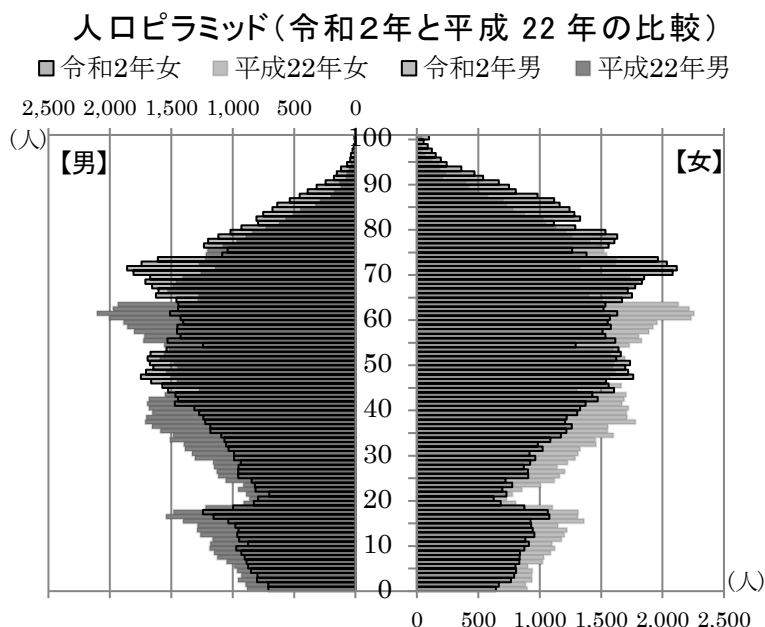
また④～⑥をみると、④平成22年に30～34歳の人口は14,265人で、令和2年では40～44歳は14,426人となり161人の増加、同様に⑤平成22年35～39歳の人口は16,616人、令和2年では45～49歳は16,615人となり1人の減少、⑥平成22年の40～44歳は15,972人、令和2年では50～54歳で15,772人となり200人減少しています。

15～29歳階級では、20歳前後に大きな減少があることから、年少人口の減少の影響だけではなく、高等学校や大学等の卒業・進学及び市外への就職など社会動態も減少の原因と推測されます。

一方、40～54歳の段階では、横ばいからむしろ増加に転じています。この傾向は10～14歳、25～54歳の7階級で見受けられるものの、55歳以上の階級では一貫して減少傾向を示していることから、世代的に人口回帰の傾向がある可能性が考えられます。

右表及び人口ピラミッドにおいて平成22年から10年間を比較すると、年少人口の減少の影響を受け、生産年齢人口の減少が続いており、今後もこの傾向が続くと考えられます。

また、年齢の高い階級では、人口が増加すると共に、概ね人口を保ちながら推移してきていることから、今後も老年人口の増加傾向が続き、少子高齢化が進むと予測されます。



年齢(5歳階級)別人口 比較表

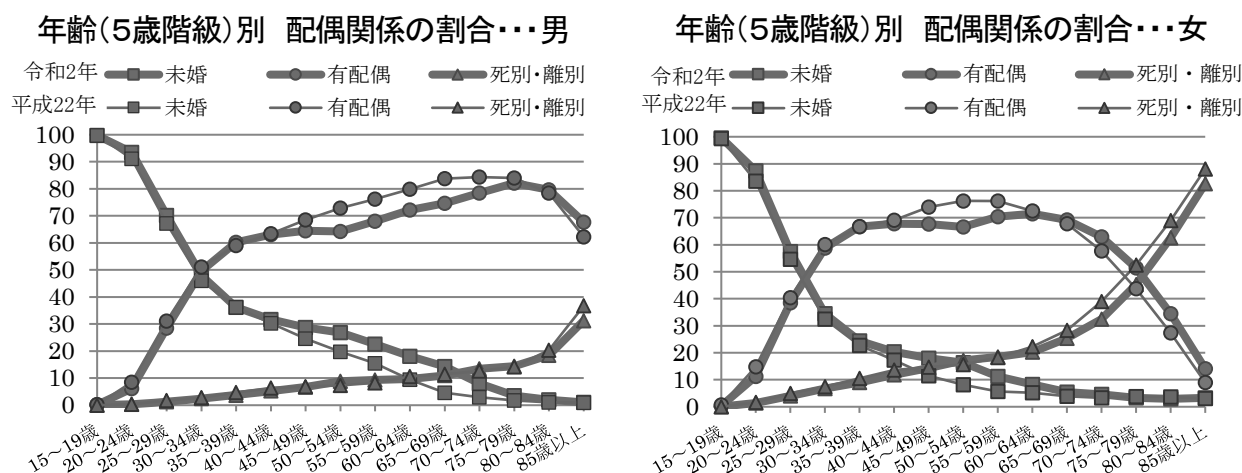
区分	令和2年			平成27年			平成22年		
	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女
総数	223,415	106,818	116,597	231,257	110,493	120,764	237,615	113,340	124,275
0～4歳	7,548	3,873	3,675	8,479	4,381	4,098	9,219	4,624	4,595
5～9歳	8,748	4,564	4,184	9,083	4,613	4,470	10,670	5,495	5,175
10～14歳	9,340	4,718	4,622	10,560	5,439	5,121	12,037	6,183	5,854
15～19歳	9,887	5,259	4,628	11,496	6,055	5,441	12,454	6,559	5,895
20～24歳	7,525	3,976	3,549	8,673	4,517	4,156	9,175	4,678	4,497
25～29歳	9,351	4,784	4,567	9,984	5,040	4,944	11,887	5,861	6,026
30～34歳	10,420	5,235	5,185	11,841	5,826	6,015	14,265	7,111	7,154
35～39歳	12,307	6,098	6,209	13,930	6,968	6,962	16,616	8,311	8,305
40～44歳	14,426	7,217	7,209	16,521	8,229	8,292	15,972	7,883	8,089
45～49歳	16,615	8,334	8,281	15,707	7,704	8,003	15,505	7,511	7,994
50～54歳	15,772	7,816	7,956	15,243	7,394	7,849	15,924	7,709	8,215
55～59歳	15,057	7,265	7,792	15,521	7,465	8,056	18,394	8,990	9,404
60～64歳	15,207	7,282	7,925	17,796	8,618	9,178	19,650	9,303	10,347
65～69歳	17,194	8,268	8,926	18,753	8,783	9,970	15,598	7,164	8,434
70～74歳	17,680	8,104	9,576	14,631	6,562	8,069	13,730	6,117	7,613
75～79歳	13,204	5,608	7,596	12,277	5,237	7,040	11,904	4,991	6,913
80～84歳	10,216	3,955	6,261	9,789	3,744	6,045	7,747	2,878	4,869
85～89歳	7,150	2,334	4,816	5,428	1,728	3,700	4,043	1,112	2,931
90～94歳	3,038	757	2,281	2,150	464	1,686	1,592	369	1,223
95～99歳	737	124	613	513	75	438	369	48	321
100歳以上	109	10	99	73	3	70	47	5	42
(再掲)									
年少人口	25,636	13,155	12,481	28,122	14,433	13,689	31,926	16,302	15,624
生産年齢人口	126,567	63,266	63,301	136,712	67,816	68,896	149,842	73,916	75,926
老年人口	69,328	29,160	40,168	63,614	26,596	37,018	55,030	22,684	32,346
年齢不詳	1,884	1,237	647	2,809	1,648	1,161	817	438	379

区分	調査年別人口増減								
	令和2年-平成27年			平成27年-平成22年			令和2年-平成22年		
	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女
総数	△ 7,842	△ 3,675	△ 4,167	△ 6,358	△ 2,847	△ 3,511	△ 14,200	△ 6,522	△ 7,678
0～4歳	△ 931	△ 508	△ 423	△ 740	△ 243	△ 497	△ 1,671	△ 751	△ 920
5～9歳	△ 335	△ 49	△ 286	△ 1,587	△ 882	△ 705	△ 1,922	△ 931	△ 991
10～14歳	△ 1,220	△ 721	△ 499	△ 1,477	△ 744	△ 733	△ 2,697	△ 1,465	△ 1,232
15～19歳	△ 1,609	△ 796	△ 813	△ 958	△ 504	△ 454	△ 2,567	△ 1,300	△ 1,267
20～24歳	△ 1,148	△ 541	△ 607	△ 502	△ 161	△ 341	△ 1,650	△ 702	△ 948
25～29歳	△ 633	△ 256	△ 377	△ 1,903	△ 821	△ 1,082	△ 2,536	△ 1,077	△ 1,459
30～34歳	△ 1,421	△ 591	△ 830	△ 2,424	△ 1,285	△ 1,139	△ 3,845	△ 1,876	△ 1,969
35～39歳	△ 1,623	△ 870	△ 753	△ 2,686	△ 1,343	△ 1,343	△ 4,309	△ 2,213	△ 2,096
40～44歳	△ 2,095	△ 1,012	△ 1,083	549	346	203	△ 1,546	△ 666	△ 880
45～49歳	908	630	278	202	193	9	1,110	823	287
50～54歳	529	422	107	△ 681	△ 315	△ 366	△ 152	107	△ 259
55～59歳	△ 464	△ 200	△ 264	△ 2,873	△ 1,525	△ 1,348	△ 3,337	△ 1,725	△ 1,612
60～64歳	△ 2,589	△ 1,336	△ 1,253	△ 1,854	△ 685	△ 1,169	△ 4,443	△ 2,021	△ 2,422
65～69歳	△ 1,559	△ 515	△ 1,044	3,155	1,619	1,536	1,596	1,104	492
70～74歳	3,049	1,542	1,507	901	445	456	3,950	1,987	1,963
75～79歳	927	371	556	373	246	127	1,300	617	683
80～84歳	427	211	216	2,042	866	1,176	2,469	1,077	1,392
85～89歳	1,722	606	1,116	1,385	616	769	3,107	1,222	1,885
90～94歳	888	293	595	558	95	463	1,446	388	1,058
95～99歳	224	49	175	144	27	117	368	76	292
100歳以上	36	7	29	26	7	28	62	5	57
(再掲)									
年少人口	△ 2,486	△ 1,278	△ 1,208	△ 3,804	△ 1,869	△ 1,935	△ 6,290	△ 3,147	△ 3,143
生産年齢人口	△ 10,145	△ 4,550	△ 5,595	△ 13,130	△ 6,100	△ 7,030	△ 23,275	△ 10,650	△ 12,625
老年人口	5,714	2,564	3,150	8,584	3,912	4,672	14,298	6,476	7,822
年齢不詳	△ 925	△ 411	△ 514	1,992	1,210	782	1,067	12	268



## 7 配偶関係別・男女別人口

配偶関係を男女別にみると、未婚は男性が28,165人(構成比31.3%)、女性が20,647人(20.4%)、有配偶は男性が54,135人(60.1%)、女性が54,608人(53.9%)となっています。平成22年の結果と比較すると、男女ともに未婚率の上昇と有配偶率の減少が顕著です。



## 8 国籍別・男女別人口

外国人人口は1,096人で、平成27年と比較して403人(58.2%)増加しました。

男女別にみると、男性565人、女性531人で、男性が34人上回っています。

国籍別では、ベトナムの302人(27.6%)が最も多く、次いで中国246人(22.4%)、フィリピン158人(14.4%)、韓国、朝鮮134人(12.2%)となっています。平成27年と比較すると、韓国、朝鮮が減少しているのに対して、ベトナムの急増が顕著であり、中国、フィリピン、インドネシア等といった近隣諸国からの流入もあり、市内における外国人比率が高まっています。

国籍別・男女別人口増減 構成表

国籍	令和2年			平成27年			令和2年-平成27年 増減数			令和2年 構成比(%)		
	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女
<b>総数(外国人)</b>	<b>1,096</b>	<b>565</b>	<b>531</b>	<b>693</b>	<b>310</b>	<b>383</b>	<b>403</b>	<b>255</b>	<b>148</b>	-	-	-
韓国, 朝鮮	134	66	68	157	78	79	△ 23	△ 12	△ 11	12.2	11.7	12.8
中国	246	167	79	218	113	105	28	54	△ 26	22.4	29.6	14.9
フィリピン	158	46	112	127	21	106	31	25	6	14.4	8.1	21.1
タイ	16	3	13	15	1	14	1	2	△ 1	1.5	0.5	2.4
インドネシア	54	49	5	18	8	10	36	41	△ 5	4.9	8.7	0.9
ベトナム	302	122	180	28	12	16	274	110	164	27.6	21.6	33.9
インド	-	-	-	1	1	-	△ 1	△ 1	-	-	-	-
ネパール 1)	30	17	13	…	…	…	…	…	…	2.7	3.0	2.4
イギリス	8	8	-	7	6	1	1	2	△ 1	0.7	1.4	-
アメリカ	37	23	14	43	32	11	△ 6	△ 9	3	3.4	4.1	2.6
ブラジル	3	3	-	-	-	-	3	3	-	0.3	0.5	-
ペルー	6	3	3	3	-	3	3	3	-	0.5	0.5	0.6
その他 2)	102	58	44	76	38	38	26	20	6	9.3	10.3	8.3

1) 平成27年では「その他」を含む

2) 無国籍及び国籍「不詳」を含む

## II 世帯と住居

### 1 世帯の状況

世帯総数 95,671 世帯のうち、病院、社会施設の入居者などの「施設等の世帯」を除いた「一般世帯」は 95,422 世帯で、世帯総数の 99.7%を占めています。一般世帯の世帯人員は、216,145 人で、総人口の 96.7%を占めています。

一般世帯数を平成 27 年と比較すると、1,921 世帯(2.0%)増加している一方、一般世帯員は 7,842 人(3.4%)減少しています。これに伴い、1世帯あたりの世帯人員は平成 27 年の 2.40 人から 2.27 人となり、0.13 人減少しています。

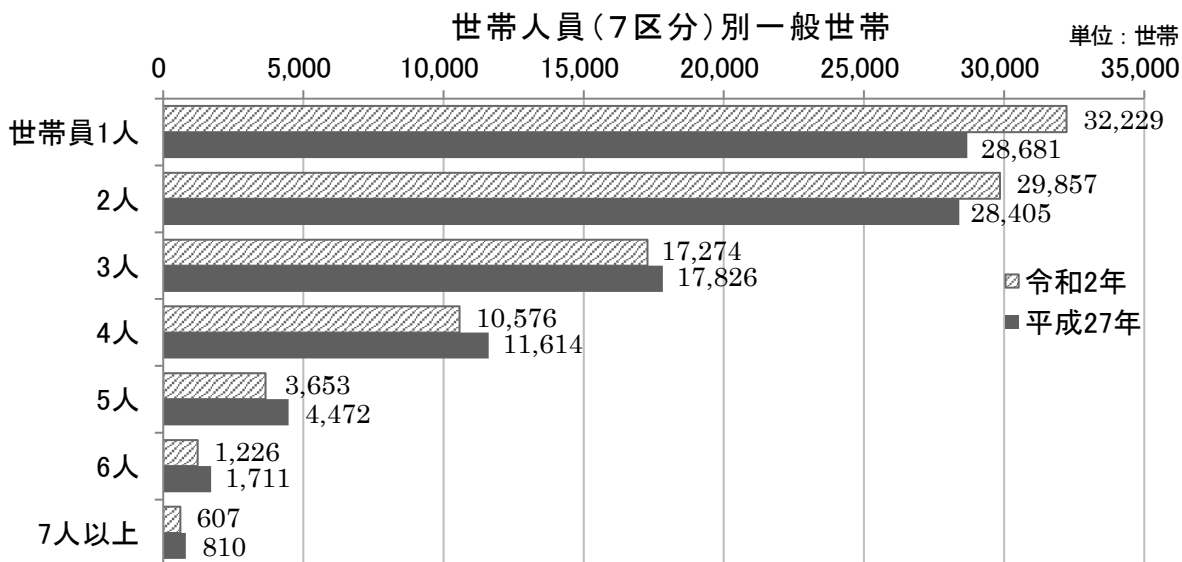
次に世帯人員別に見ると、1世帯あたり3人以上の世帯は減少している一方、世帯人員が1～2人の世帯数は増加しており、世帯人員が1人の世帯数は 3,548 世帯、2人の世帯数は 1,452 世帯増加しています。

世帯員(7区分)別一般世帯数、一般世帯人員及び1世帯あたり人員

区分	総数	一般世帯							
	世帯数	総数	世帯員 1人	2人	3人	4人	5人	6人	7人以上
令和2年	95,671	95,422	32,229	29,857	17,274	10,576	3,653	1,226	607
平成27年	93,750	93,519	28,681	28,405	17,826	11,614	4,472	1,711	810
増減	1,921	1,903	3,548	1,452	△ 552	△ 1,038	△ 819	△ 485	△ 203
増減率(%)	2.0	2.0	12.4	5.1	△ 3.1	△ 8.9	△ 18.3	△ 28.3	△ 25.1

区分	総数	一般世帯			
	世帯員数	世帯 人員	1世帯 当たり 人員	間借り・ 下宿等の 単身者	会社等の 独身寮の 単身者
令和2年	223,415	216,145	2.27	919	656
平成27年	231,257	224,020	2.40	584	540
増減	△ 7,842	△ 7,875	△ 0.13	335	116
増減率(%)	△ 3.4	△ 3.5	△ 5.44	57.4	21.5



## 2 高齢者世帯の状況

総世帯数 95,671 世帯のうち、65 歳以上親族のいる一般世帯数は 45,181 世帯で、平成 27 年と比較すると 3,457 世帯(8.3%)増加しました。

夫婦のみの世帯のうち、いずれかが 65 歳以上の夫婦のみの世帯数は 12,193 世帯で、平成 27 年と比較すると 1,020 世帯(9.1%)増加しています。そのうち、夫婦とも 65 歳以上の世帯は 10,066 世帯で、平成 27 年と比較すると 1,228 世帯(13.9%)増加しており、核家族の高齢化が進んでいます。

また、65 歳以上世帯員の単独世帯は 13,085 世帯で、平成 27 年と比較すると 2,638 世帯(25.3%)増加しています。

高齢者世帯の状況別世帯数

世帯の区分	令和2年	平成27年	増減数	増減率(%)
<b>世帯総数</b>	<b>95,671</b>	93,750	1,921	2.0
うち一般世帯 総数	<b>95,422</b>	93,519	1,903	2.0
65歳以上世帯員がいる世帯	<b>45,181</b>	41,724	3,457	8.3
75歳以上世帯員のいる世帯	<b>24,506</b>	21,643	2,863	13.2
85歳以上世帯員のいる世帯	<b>7,934</b>	5,789	2,145	37.1
いずれかが65歳以上の夫婦のみの世帯	<b>12,193</b>	11,173	1,020	9.1
うち夫婦とも65歳以上の世帯	<b>10,066</b>	8,838	1,228	13.9
65歳以上世帯員の単独世帯	<b>13,085</b>	10,447	2,638	25.3

## 3 住居の状況

一般世帯 95,422 世帯のうち、住宅に住む世帯は 94,363 世帯で、一般世帯数の 98.9%を占めています。

住宅の所有関係別に見ると、持ち家に住む世帯は 60,550 世帯で最も多く、次いで民営の貸家に住む世帯 26,477 世帯、公営・都市再生機構・公舎の貸家に住む世帯 3,239 世帯、給与住宅に住む世帯 2,637 世帯となっています。

平成 27 年調査と比較すると、持ち家に住む世帯は 1,384 世帯 (2.3%) 増加しました。

住居の種類・住宅の所有の関係(6区分)別一般世帯数

区分	一般世帯数	住宅に住む一般世帯							住宅以外に住む一般世帯
		総数	世帯主				間借り		
			総数	持ち家	公営・都市再生機構・公舎の借家	民営の借家		給与住宅	
令和2年	95,422	94,363	92,903	60,550	3,239	26,477	2,637	1,460	1,059
平成27年	93,519	92,420	91,659	59,166	3,732	26,201	2,560	761	1,099
増減数	1,903	1,943	1,244	1,384	△ 493	276	77	699	△ 40
増減率(%)	2.0	2.1	1.4	2.3	△ 13.2	1.1	3.0	91.9	△ 3.6

### Ⅲ 労働力の状態

#### 1 労働力人口

令和2年10月1日現在の八戸市の15歳以上人口195,895人のうち、労働力人口(就業者と完全失業者の計)は111,242人で、平成27年調査と比較し3,078人減少しました。

一方、労働力率(15歳以上人口に占める労働力人口の割合)は59.2%であり、平成27年と比較すると1.3ポイント増加しています。

非労働力人口は76,675人で、平成27年と比較すると6,405人減少しています。

労働力人口を男女別にみると、男性60,595人、女性50,647人で、平成27年と比較すると、男性は2,903人、女性は175人それぞれ減少しています。

労働力状態 男女別 15歳以上人口

労働力状態	令和2年			平成27年			増減数			増減率(%)		
	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女
15歳以上人口	195,895	92,426	103,469	200,326	94,412	105,914	△4,431	△1,986	△2,445	△2.2	△2.1	△2.3
労働力人口	111,242	60,595	50,647	114,320	63,498	50,822	△3,078	△2,903	△175	△2.7	△4.6	△0.3
就業者	106,198	57,460	48,738	108,032	59,622	48,410	△1,834	△2,162	328	△1.7	△3.6	0.7
完全失業者	5,044	3,135	1,909	6,288	3,876	2,412	△1,244	△741	△503	△19.8	△19.1	△20.9
非労働力人口	76,675	27,640	49,035	83,080	29,351	53,729	△6,405	△1,711	△4,694	△7.7	△5.8	△8.7
労働力率(%)	59.2	68.7	50.8	57.9	68.4	48.6	1.3	0.3	2.2	-	-	-

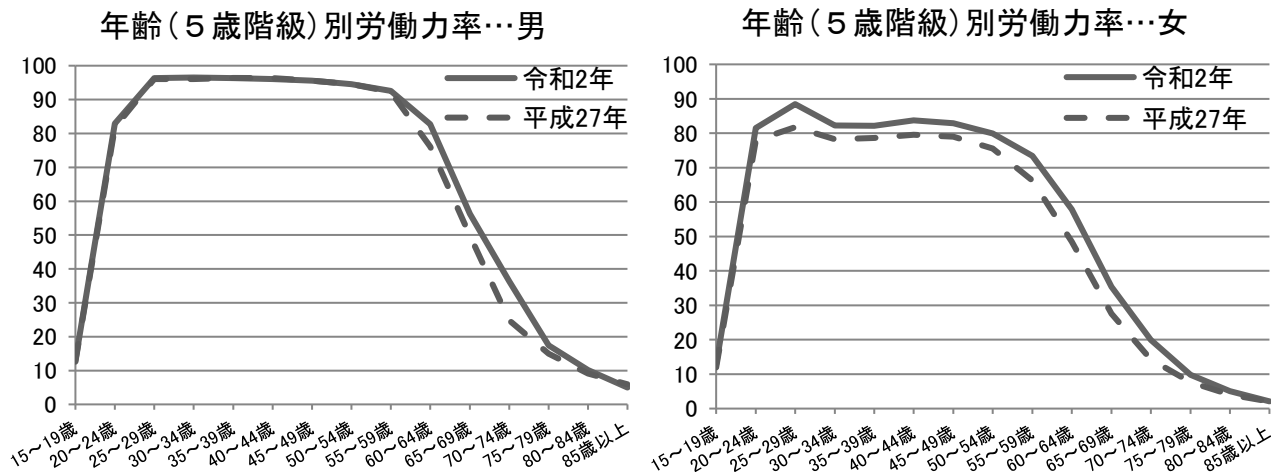
※15歳以上人口には労働力状態「不詳」を含む

#### 2 年齢(5歳階級)別の労働力の状態

##### (1) 労働力率

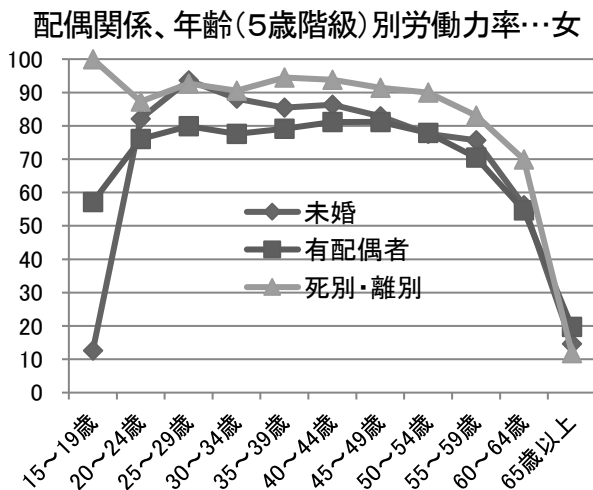
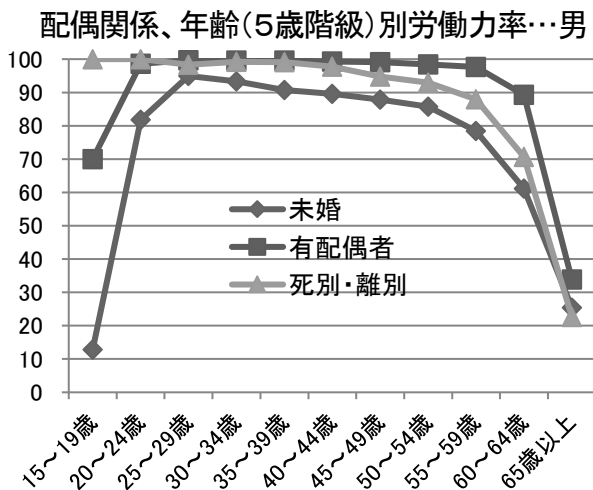
労働力率の構成を男女別に比較すると、男性は20代～50代までが横ばいの台形、女性は30代が少ないM字型をしています。

平成27年調査と比較すると、男性は60代以降で上昇が見られ、特に60～74歳において大幅に上昇しています。女性は全体的に増加しており、M字型がフラット化してきています。



労働力率を配偶関係別の年齢5歳階級毎にみると、男性は未婚の労働力率がやや低いものの、20代後半から50代後半まで高い割合を示しており、20代以降の傾向に大きな違いはありません。

一方、女性は死別・離別の労働力率が全体的に高い傾向にあります。また、有配偶者の労働力率がやや低いものの、45歳以降は未婚とほぼ同じ傾向を示しています。



## (2) 就業者と完全失業率

労働力人口111,242人のうち就業者は106,198人で、平成27年と比較して1,834人減少しています。

就業者を男女別にみると、男性は57,460人、女性が48,738人で、平成27年と比較して、男性が2,162人減少、女性が328人増加しています。男性では「主に仕事」が減少する一方、女性は「主に仕事」が増加し、「家事のほか仕事」が減少しています。

### 男女別就業者数及び完全失業率

労働力状態	令和2年			平成27年			増減数			増減率(%)		
	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女
15歳以上人口 1)	195,895	92,426	103,469	200,326	94,412	105,914	△4,431	△1,986	△2,445	△2.2	△2.1	△2.3
労働力人口	111,242	60,595	50,647	114,320	63,498	50,822	△3,078	△2,903	△175	△2.7	△4.6	△0.3
就業者	106,198	57,460	48,738	108,032	59,622	48,410	△1,834	△2,162	328	△1.7	△3.6	0.7
主に仕事	93,813	55,123	38,690	94,365	57,584	36,781	△552	△2,461	1,909	△0.6	△4.3	5.2
家事のほか仕事	9,194	852	8,342	11,146	830	10,316	△1,952	22	△1,974	△17.5	2.7	△19.1
通学のかたわら仕事	590	303	287	564	300	264	26	3	23	4.6	1.0	8.7
休業者	2,601	1,182	1,419	1,957	908	1,049	644	274	370	32.9	30.2	35.3
完全失業者	5,044	3,135	1,909	6,288	3,876	2,412	△1,244	△741	△503	△19.8	△19.1	△20.9
完全失業率(%) 2)	4.5	5.2	3.8	5.5	6.1	4.7	△1.0	△0.9	△1.0	-	-	-

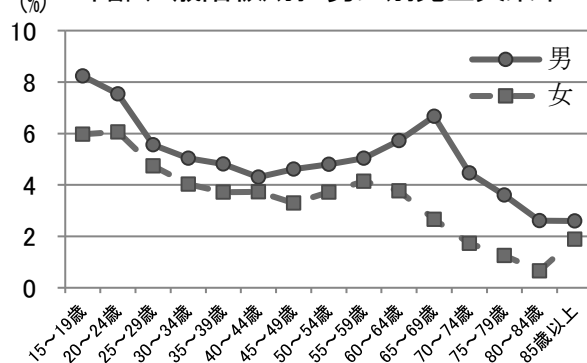
1) 労働力状態「不詳」を含む

2) 完全失業者数/労働力人口×100

完全失業者数と完全失業率は、5,044人(4.5%)となり、平成27年と比較すると1.0ポイントの減少となりました。

年齢階級別にみると、男女とも15~24歳が高く、40代が低くなっており、その後一旦上昇する傾向があります。特に60代男性の失業率の上昇が顕著であり、女性との差が大きくなっています。

### 年齢(5歳階級)別 男女別完全失業率



### 3 産業大分類別就業者

#### (1) 産業大分類別の就業者数の状況

産業大分類別にみると、「卸売・小売業」が最も多く 18,447 人で全体の 17.4%を占めています。次いで「医療、福祉」が 15,344 人で 14.4%、「製造業」13,412 人で 12.6%、「建設業」9,862 人で 9.3%、「サービス業」7,147 人で 6.7%を占めています。

産業大分類別 就業者数

産業大分類		就業者数			構成比 (%)		
		総数	男	女	総数	男	女
総数		106,198	57,460	48,738	-	-	-
第一次産業	A 農業、林業 うち農業	2,594	1,558	1,036	2.4	2.7	2.1
	B 漁業	2,485	1,467	1,018	2.3	2.6	2.1
第二次産業	C 鉱業、採石業、砂利採取業	588	515	73	0.6	0.9	0.1
	D 建設業	134	117	17	0.1	0.2	0.0
	E 製造業	9,862	8,373	1,489	9.3	14.6	3.1
第三次産業	F 電気・ガス・熱供給・水道業	13,412	8,761	4,651	12.6	15.2	9.5
	G 情報通信業	581	481	100	0.5	0.8	0.2
	H 情報通信業	1,532	893	639	1.4	1.6	1.3
	I 運輸業、郵便業	7,000	5,882	1,118	6.6	10.2	2.3
	J 卸売業、小売業	18,447	8,880	9,567	17.4	15.5	19.6
	K 金融業、保険業	2,316	889	1,427	2.2	1.5	2.9
	L 不動産業、物品賃貸業	1,680	853	827	1.6	1.5	1.7
	M 学術研究、専門・技術サービス業	2,382	1,518	864	2.2	2.6	1.8
	N 宿泊業、飲食サービス業	2,382	1,518	864	2.2	2.6	1.8
	O 生活関連サービス業、娯楽業	5,546	1,688	3,858	5.2	2.9	7.9
	P 生活関連サービス業、娯楽業	4,176	1,493	2,683	3.9	2.6	5.5
	Q 教育、学習支援業	4,176	1,493	2,683	3.9	2.6	5.5
	R 医療、福祉	5,597	2,263	3,334	5.3	3.9	6.8
	S 複合サービス事業	15,344	3,507	11,837	14.4	6.1	24.3
T サービス業（他に分類されないもの）	596	373	223	0.6	0.6	0.5	
(再掲)	7,147	4,286	2,861	6.7	7.5	5.9	
(再掲)	5,380	4,078	1,302	5.1	7.1	2.7	
(再掲)	1,884	1,052	832	1.8	1.8	1.7	
第一次産業		3,182	2,073	1,109	3.1	3.7	2.3
第二次産業		23,408	17,251	6,157	22.4	30.6	12.9
第三次産業		77,724	37,084	40,640	74.5	65.7	84.8

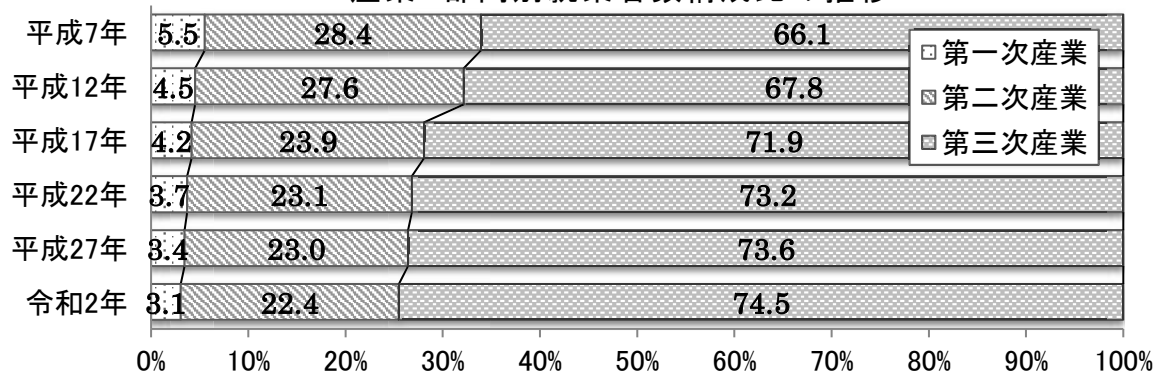
1) 分類不能の産業を除いて算出

#### (2) 産業3部門別の就業者数

就業者数を産業3部門別にみると、第一次産業は 3,182 人で全体の 3.1%、第二次産業は 23,408 人で 22.4%。第三次産業は 77,724 人で 74.5%を占めています。

平成 7 年以降の推移をみると、第一次・第二次産業の割合が減少する一方、第三次産業の割合が増加しています。

産業3部門別就業者数構成比の推移



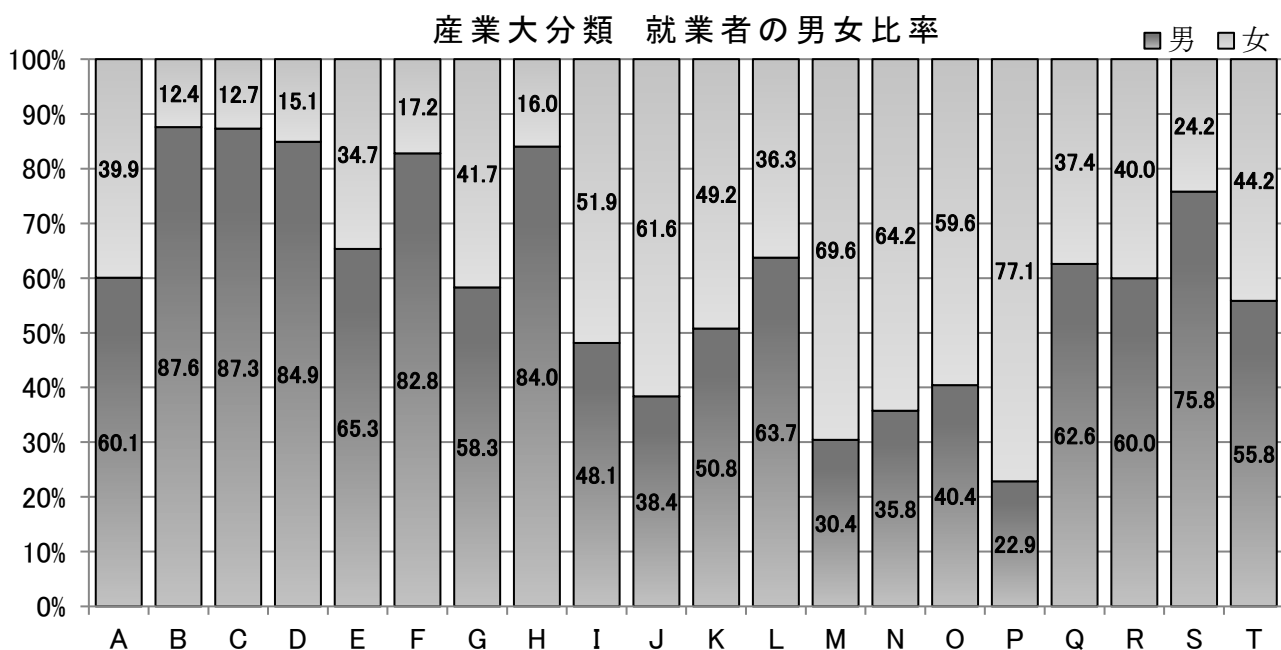
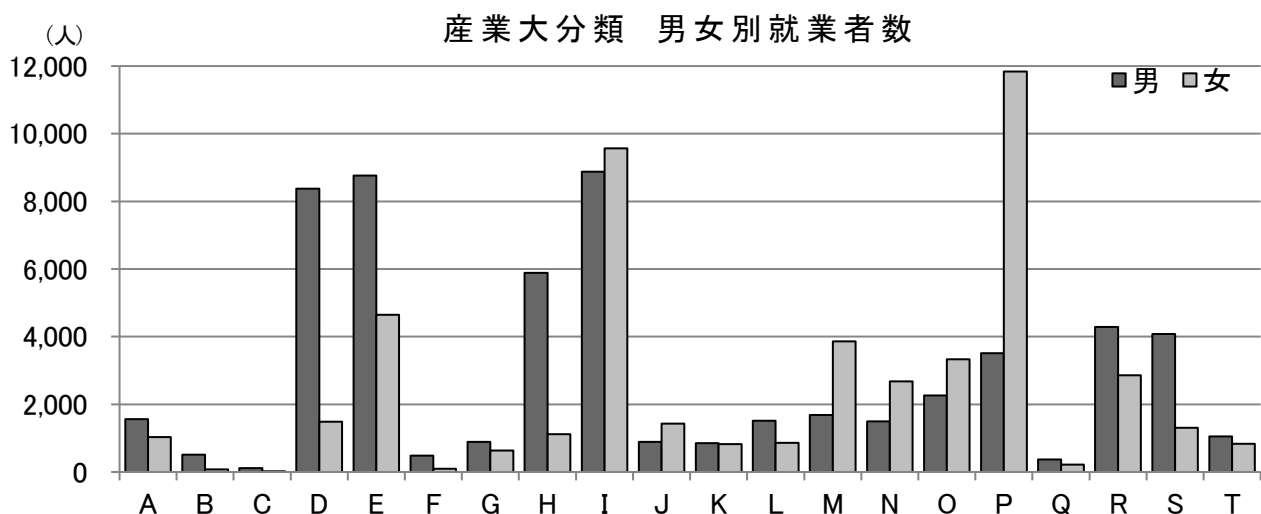
※分類不能の産業を除いて算出

### (3) 産業分類別の男女別就業者

男女別にみると、男性の就業者数が多い産業は「卸売業、小売業」、「製造業」、「建設業」で、女性の就業者が多い産業は「医療、福祉」、「卸売・小売」、「製造業」となっています。

産業別の男女比率をみると、男性の比率が高い産業は「漁業」、「鉱業、採石業、砂利採取業」、「建設業」、「運輸業、郵便業」、「電気・ガス・熱供給・水道業」であり、いずれも 80%を越えています。

また、女性の比率が高い産業は、「医療、福祉」、「宿泊業、飲食サービス業」、「生活関連サービス業、娯楽業」、「金融業・保険業」で 60%を越えており、特に「医療・福祉」は 75%を越えています。



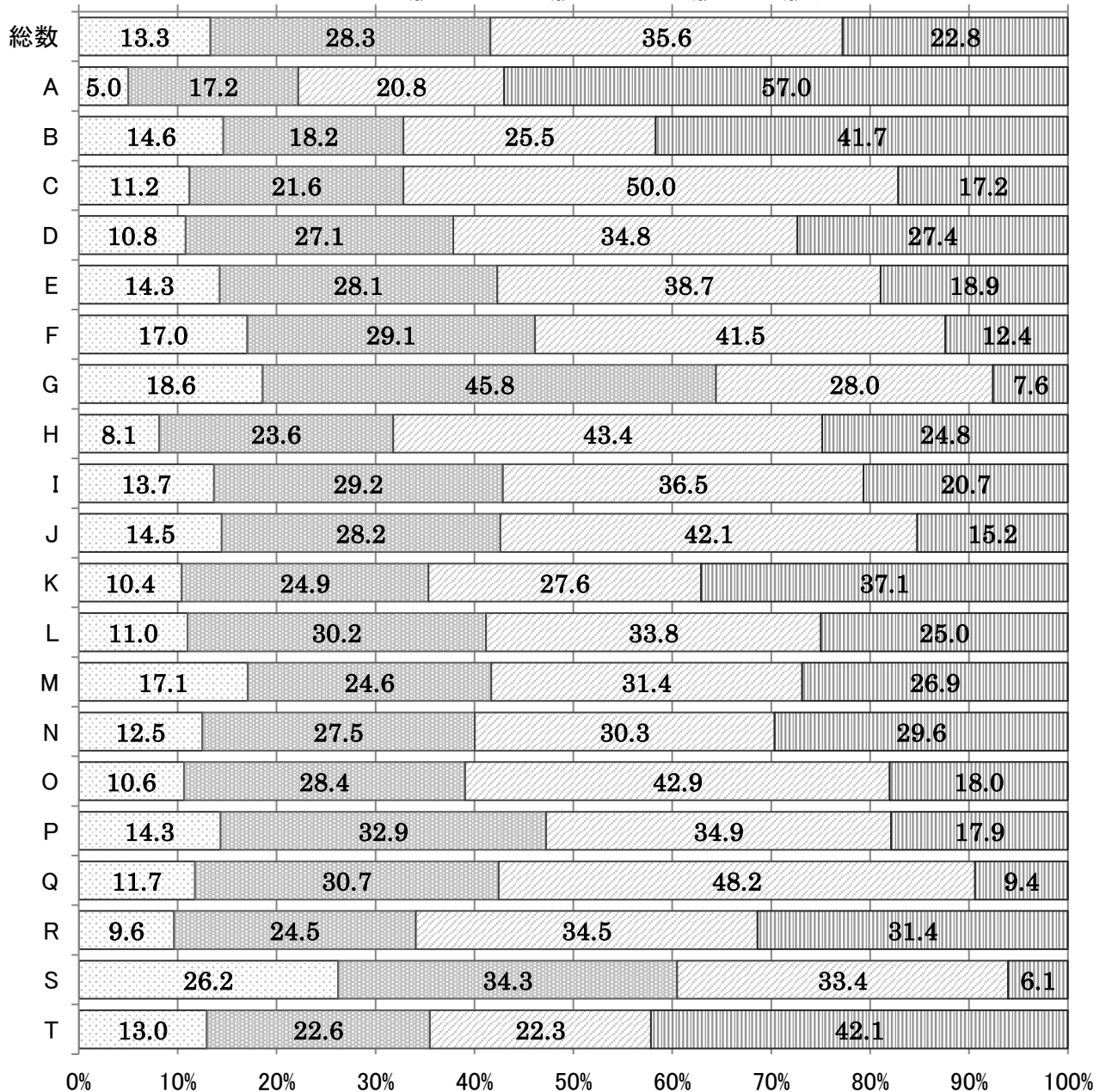
- A 農業、林業 B 漁業 C 鉱業、採石業、砂利採取業 D 建設業 E 製造業
- F 電気・ガス・熱供給・水道業 G 情報通信業 H 運輸業、郵便業 I 卸売業、小売業
- J 金融業、保険業 K 不動産業、物品賃貸業 L 学術研究、専門・技術サービス業
- M 宿泊業、飲食サービス業 N 生活関連サービス業、娯楽業 O 教育、学習支援業
- P 医療、福祉 Q 複合サービス事業 R サービス業 (他に分類されないもの)
- S 公務 (他に分類されるものを除く) T 分類不能の産業

#### (4) 年齢階級別 就業者

産業大分類就業者を年齢階級別に比較すると、15～29歳で最も比率の高い産業は「S公務（他に分類されるものを除く）」の26.2%、30～44歳では「G情報通信業」の45.8%、45～59歳では「C鉱業、採石業、砂利採取業」の50.0%です。60歳以上では「A農業、林業」の57.0%が最も多く、次いで「B漁業」の41.7%、「K不動産業、物品賃貸業」の37.1%を占めています。

産業大分類就業者の年齢（4区分）別構成比

□15～29歳 ■30～44歳 ▨45～59歳 ▩60歳以上



- A 農業、林業 B 漁業 C 鉱業、採石業、砂利採取業 D 建設業 E 製造業  
 F 電気・ガス・熱供給・水道業 G 情報通信業 H 運輸業、郵便業 I 卸売業、小売業  
 J 金融業、保険業 K 不動産業、物品賃貸業 L 学術研究、専門・技術サービス業  
 M 宿泊業、飲食サービス業 N 生活関連サービス業、娯楽業 O 教育、学習支援業  
 P 医療、福祉 Q 複合サービス事業 R サービス業（他に分類されないもの）  
 S 公務（他に分類されるものを除く） T 分類不能の産業



#### 4 老年人口の労働力人口と完全失業率

老年人口の労働力人口は、65歳以上人口69,328人のうち14,962人で、平成27年から3,011人増加しており、非労働力人口は52,118人で1,065人増加しています。

また、労働力率は22.3%で平成27年と比較すると3.3ポイント増加しており、男女別にみると、男性が4.1ポイント、女性が2.7ポイント増加しています。

また、完全失業者数は604人で108人増加していますが、完全失業率は4.0%となり、労働力人口が増加しているため0.2ポイント減少しており、男女とも同様の傾向が見られます。

#### 高齢者の労働力状態

男女・年齢 (5歳階級)	令和2年							平成27年						
	総数 (1)	労働力人口			非労働 力人口	労働 力率 (%) (2)	完全 失業率 (%) (3)	総数 (1)	労働力人口			非労働 力人口	労働 力率 (%) (2)	完全 失業率 (%) (3)
		総数	就業者	完全 失業者					総数	就業者	完全 失業者			
<b>男女計</b>														
65歳以上	69,328	14,962	14,358	604	52,118	22.3	4.0	63,614	11,951	11,455	496	51,053	19.0	4.2
65歳～74歳	34,874	12,299	11,757	542	21,570	36.3	4.4	33,384	9,812	9,359	453	23,246	29.7	4.6
75歳以上	34,454	2,663	2,601	62	30,548	8.0	2.3	30,230	2,139	2,096	43	27,807	7.1	2.0
15歳以上	195,895	111,242	106,198	5,044	76,675	59.2	4.5	200,326	114,320	108,032	6,288	83,080	57.9	5.5
<b>男</b>														
65歳以上	29,160	8,842	8,366	476	19,300	31.4	5.4	26,596	7,187	6,796	391	19,104	27.3	5.4
65歳～74歳	16,372	7,360	6,932	428	8,497	46.4	5.8	15,345	5,941	5,578	363	9,233	39.2	6.1
75歳以上	12,788	1,482	1,434	48	10,803	12.1	3.2	11,251	1,246	1,218	28	9,871	11.2	2.2
15歳以上	92,426	60,595	57,460	3,135	27,640	68.7	5.2	94,412	63,498	59,622	3,876	29,351	68.4	6.1
<b>女</b>														
65歳以上	40,168	6,120	5,992	128	32,818	15.7	2.1	37,018	4,764	4,659	105	31,949	13.0	2.2
65歳～74歳	18,502	4,939	4,825	114	13,073	27.4	2.3	18,039	3,871	3,781	90	14,013	21.6	2.3
75歳以上	21,666	1,181	1,167	14	19,745	5.6	1.2	18,979	893	878	15	17,936	4.7	1.7
15歳以上	103,469	50,647	48,738	1,909	49,035	50.8	3.8	105,914	50,822	48,410	2,412	53,729	48.6	4.7

1)総数には労働力状態「不詳」を含む。

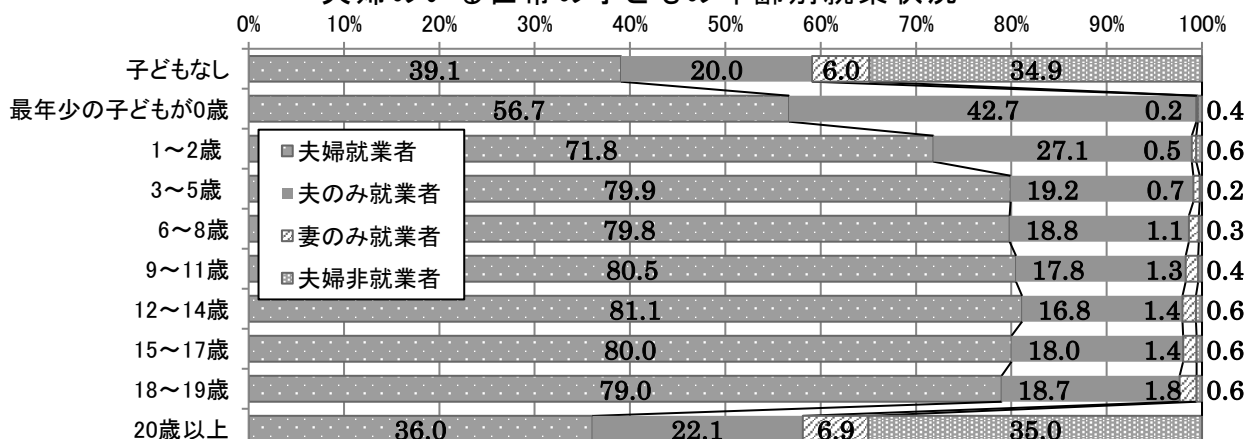
2)労働力人口/総数(労働力状態「不詳」を除いて算出)

3)完全失業者数/労働力人口

#### 5 夫婦のいる一般世帯の就業状況

夫婦のいる一般世帯を就業状況別に比較すると、夫婦就業者では、最年少の子どもが1～19歳までの世帯で高い割合を示しています。夫のみ就業者では、最年少の子どもが0歳の世帯が56.7%となっていますが、最年少の子どもの年齢が上がると低くなっています。「子どもなし」及び「最年少の子どもが20歳以上」の世帯は、夫婦非就業者の割合が高い数値を示しています。

夫婦のいる世帯の子どもの年齢別就業状況

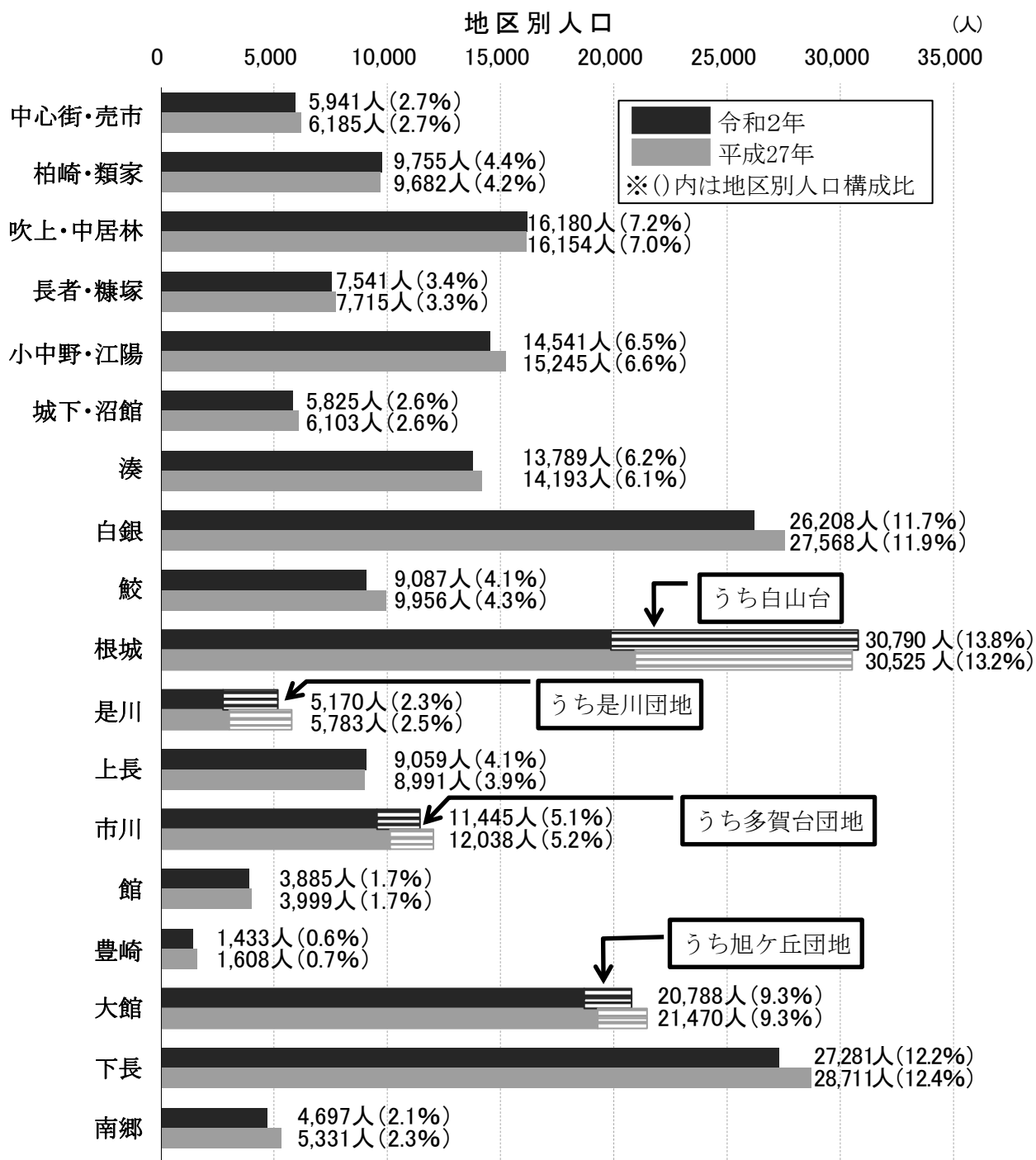


## IV 地区別の概要

### 1 地区別の人口

地区別の人口を見ると、根城地区が30,790人で市全体の13.8%を占めています。次いで下長地区の27,281人で12.2%、白銀地区の26,208人で11.7%を占めています。

平成27年の地区別人口と比較すると、柏崎・類家地区(0.8%増)、吹上・中居林地区(0.2%増)、根城地区(0.9%増)、上長地区(0.8%増)においてわずかに人口増加がみられますが、その他の地区においては減少しており、特に鮫地区(8.7%減)、是川地区(10.6%減)、豊崎地区(10.9%減)、南郷地区(11.9%減)の減少率が大きくなっています。

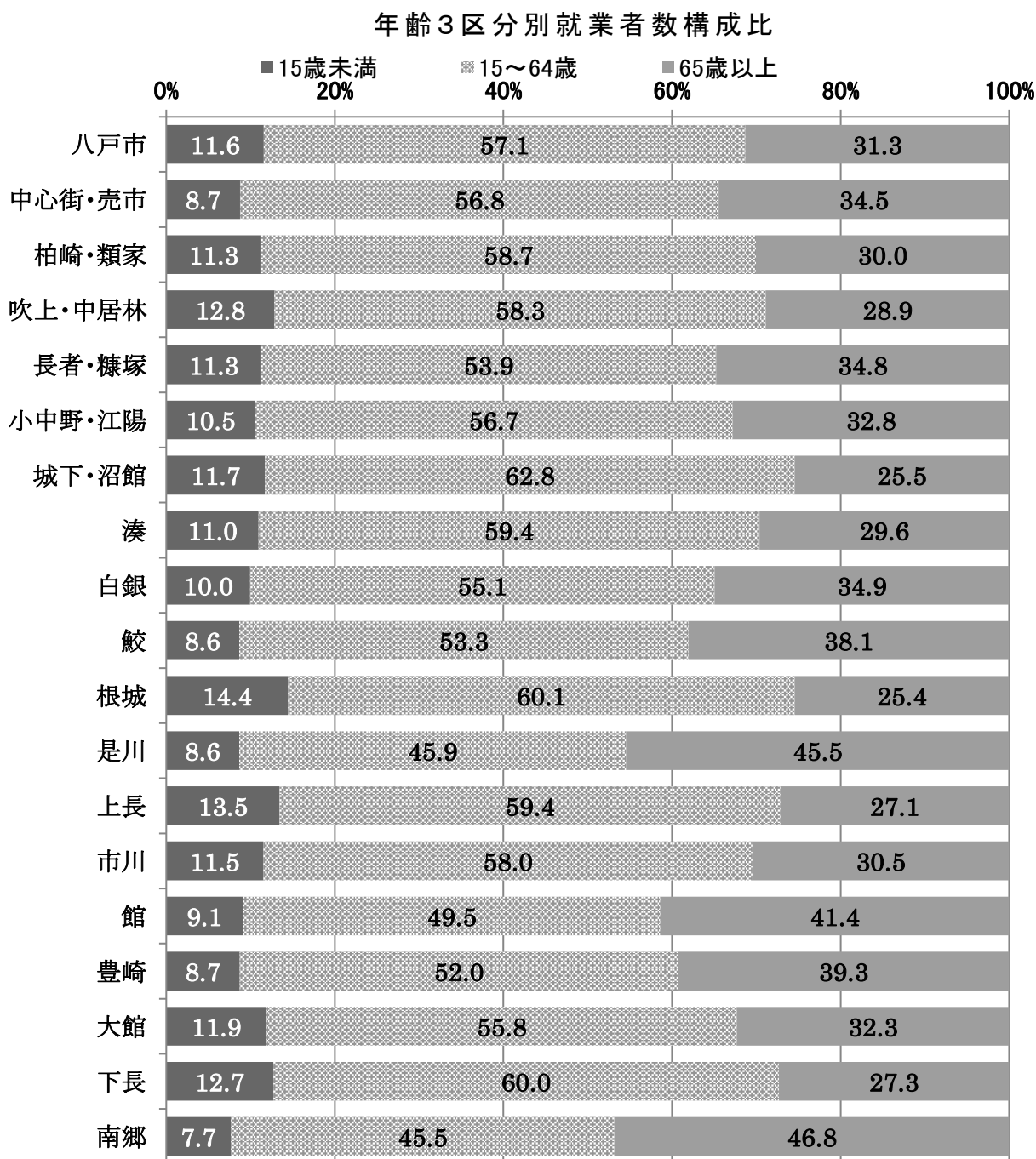


## 2 年齢3区分別の人口

年齢階級3区分別に構成比をみると、15歳未満人口が低い地区は、南郷地区の7.7%で、次いで鮫地区及び是川地区の8.6%、中心街・売市地区及び豊崎地区の8.7%となっています。

15～64歳人口を地区別に比較すると、南郷地区が45.5%と最も低く、次いで是川地区の45.9%、館地区の49.5%となっています。一方、城下・沼館地区が62.8%と最も高く、次いで根城地区の60.1%、下長地区の60.0%となっています。

65歳以上人口の構成比を地区別に比較すると、南郷地区が46.8%と最も高く、次いで是川地区の45.5%、館地区の41.4%の順です。一方、根城地区が25.4%と最も低く、次いで城下・沼館地区の25.5%、上長地区の27.1%、下長地区の27.3%となっています。



※年齢「不詳」を除いて算出

地区別・男女別人口 住宅新興地区一特掲

地区	令和2年			平成27年			増減数			増減率(%)
	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女	総数
八戸市	223,415	106,818	116,597	231,257	110,493	120,764	△7,842	△3,675	△4,167	△3.4
中心街・売市	5,941	2,757	3,184	6,185	2,879	3,306	△244	△122	△122	△3.9
柏崎・類家	9,755	4,603	5,152	9,682	4,490	5,192	73	113	△40	0.8
吹上・中居林	16,180	7,540	8,640	16,154	7,585	8,569	26	△45	71	0.2
長者・糠塚	7,541	3,559	3,982	7,715	3,627	4,088	△174	△68	△106	△2.3
小中野・江陽	14,541	6,926	7,615	15,245	7,171	8,074	△704	△245	△459	△4.6
城下・沼館	5,825	2,904	2,921	6,103	2,999	3,104	△278	△95	△183	△4.6
湊	13,789	6,609	7,180	14,193	6,706	7,487	△404	△97	△307	△2.8
白銀	26,208	12,527	13,681	27,568	13,173	14,395	△1,360	△646	△714	△4.9
鮫	9,087	4,317	4,770	9,956	4,685	5,271	△869	△368	△501	△8.7
根城	30,790	14,623	16,167	30,525	14,571	15,954	265	52	213	0.9
うち白山台 1)	<b>10,916</b>	<b>5,222</b>	<b>5,694</b>	<b>9,579</b>	<b>4,641</b>	<b>4,938</b>	<b>1,337</b>	<b>581</b>	<b>756</b>	<b>14.0</b>
是川	5,170	2,417	2,753	5,783	2,701	3,082	△613	△284	△329	△10.6
うちは川団地	<b>2,420</b>	<b>1,114</b>	<b>1,306</b>	<b>2,758</b>	<b>1,289</b>	<b>1,469</b>	<b>△338</b>	<b>△175</b>	<b>△163</b>	<b>△12.3</b>
上長	9,059	4,326	4,733	8,991	4,321	4,670	68	5	63	0.8
市川	11,445	5,780	5,665	12,038	6,137	5,901	△593	△357	△236	△4.9
うち多賀台団地	<b>1,899</b>	<b>914</b>	<b>985</b>	<b>1,913</b>	<b>949</b>	<b>964</b>	<b>△14</b>	<b>△35</b>	<b>21</b>	<b>△0.7</b>
館	3,885	1,858	2,027	3,999	1,903	2,096	△114	△45	△69	△2.9
豊崎	1,433	670	763	1,608	752	856	△175	△82	△93	△10.9
大館	20,788	9,880	10,908	21,470	10,250	11,220	△682	△370	△312	△3.2
うち旭ヶ丘団地	<b>2,093</b>	<b>918</b>	<b>1,175</b>	<b>2,178</b>	<b>974</b>	<b>1,204</b>	<b>△85</b>	<b>△56</b>	<b>△29</b>	<b>△3.9</b>
下長	27,281	13,268	14,013	28,711	14,013	14,698	△1,430	△745	△685	△5.0
南郷	4,697	2,254	2,443	5,331	2,530	2,801	△634	△276	△358	△11.9

1)「白山台」は、東、西、南、北白山台の集計

地区別・年齢3区分別人口 住宅新興地区一特掲

区分	0～14歳人口			15～64歳人口			65歳以上人口		
	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女
八戸市 1)	25,636	13,155	12,481	126,567	63,266	63,301	69,328	29,160	40,168
中心街・売市	502	249	253	3,259	1,598	1,661	1,977	786	1,191
柏崎・類家	1,074	560	514	5,601	2,758	2,843	2,866	1,153	1,713
吹上・中居林	2,057	1,042	1,015	9,361	4,494	4,867	4,633	1,920	2,713
長者・糠塚	846	463	383	4,045	1,976	2,069	2,607	1,091	1,516
小中野・江陽	1,515	777	738	8,178	4,132	4,046	4,731	1,936	2,795
城下・沼館	668	361	307	3,589	1,860	1,729	1,454	609	845
湊	1,496	788	708	8,115	4,012	4,103	4,046	1,722	2,324
白銀	2,600	1,324	1,276	14,385	7,276	7,109	9,125	3,856	5,269
鮫	783	402	381	4,829	2,454	2,375	3,447	1,440	2,007
根城	4,408	2,275	2,133	18,356	9,018	9,338	7,768	3,165	4,603
うち白山台 2)	<b>2,130</b>	<b>1,092</b>	<b>1,038</b>	<b>6,815</b>	<b>3,278</b>	<b>3,537</b>	<b>1,897</b>	<b>807</b>	<b>1,090</b>
是川	447	233	214	2,372	1,166	1,206	2,349	1,016	1,333
うちは川団地	<b>226</b>	<b>121</b>	<b>105</b>	<b>1,063</b>	<b>515</b>	<b>548</b>	<b>1,130</b>	<b>477</b>	<b>653</b>
上長	1,205	584	621	5,321	2,692	2,629	2,430	980	1,450
市川	1,312	682	630	6,609	3,547	3,062	3,469	1,507	1,962
うち多賀台団地	<b>336</b>	<b>159</b>	<b>177</b>	<b>1,172</b>	<b>588</b>	<b>584</b>	<b>371</b>	<b>149</b>	<b>222</b>
館	353	190	163	1,920	981	939	1,603	682	921
豊崎	125	63	62	745	375	370	563	232	331
大館	2,460	1,250	1,210	11,544	5,705	5,839	6,682	2,858	3,824
うち旭ヶ丘団地	<b>315</b>	<b>153</b>	<b>162</b>	<b>1,134</b>	<b>511</b>	<b>623</b>	<b>637</b>	<b>248</b>	<b>389</b>
下長	3,425	1,734	1,691	16,203	8,096	8,107	7,381	3,262	4,119
南郷	360	178	182	2,135	1,126	1,009	2,197	945	1,252

1)年齢「不詳」を除いて算出。

2)「白山台」は、東、西、南、北白山台の集計

## V 青森県と青森県内3市(八戸市、青森市、弘前市)の比較

### (1) 青森県と3市の人口

令和2年10月1日現在の青森県の人口は1,237,984人であり、3市が県内で占める人口の割合は、それぞれ青森市22.2%、八戸市18.0%、弘前市13.6%で、県全体の53.9%を占めています。

男女別人口をみると、県は男性583,402人、女性654,582人、人口性比は89.1であり、青森市は男性128,049人、女性147,143人、人口性比87.0、弘前市は男性77,251人、女性91,215人、人口性比84.7です。八戸市は男性106,818人、女性116,597人、人口性比91.6と3市で一番高い数値を示しています。

3市の人口は、八戸市223,415人、青森市275,192人、弘前市168,466人で、いずれも平成27年から減少しており、八戸市で7,842人(△3.4%)、青森市で12,456人(△4.3%)、弘前市で8,945人(△5.0%)減少しています。

### (2) 人口の推移

青森県の人口推移をみると、平成22年からの10年間で135,355人(男性62,739人、女性72,616人)減少しています。

また、3市の10年間の人口推移をみると、いずれの市も減少しており、八戸市は14,200人(男性6,522人、女性7,678人)、青森市は24,328人(男性11,035人、女性13,293人)、弘前市は15,007人(男性6,813人、女性8,194人)減少しています。3市の減少人数の合計は53,535人(男性24,370人、女性29,165人)であり、県の人口減少の約40.0%を占めています。

平成22年から平成27年、平成27年から令和2年の推移を比較すると、青森県は65,074人減少から70,281人減少、八戸市は6,358人減少から7,842人減少、青森市は11,872人減少から12,456人減少、弘前市は6,062人減少から8,945人減少となっており、総人口が減少しているのにも関わらず、いずれも減少幅が拡大しています。

### (3) 年齢3区分人口の推移

青森県の年齢3区分別の人口の推移をみると、平成22年から10年間に年少人口、生産年齢人口が大きく減少する一方、老年人口は増加しています。

男女別に比較すると、年少人口は男女の減少数に大きな差はありませんが、生産年齢人口の女性の減少数が大きくなっています。

年少人口指数(生産年齢人口に対する年少人口の割合)を比較すると、青森県の19.1に対し、3市の中で八戸市だけが20.3と県平均を上回っています。

また、老年人口指数(生産年齢人口に対する老年人口の割合)を比較すると、県の61.1に対して八戸市54.8、青森市56.5、弘前市56.7といずれの市も県平均を下回っており、老年化指数(年少人口に対する老年人口の割合)も、県の319.8に対して八戸市が270.4、青森市が302.4、弘前市が309.6といずれも下回っています。

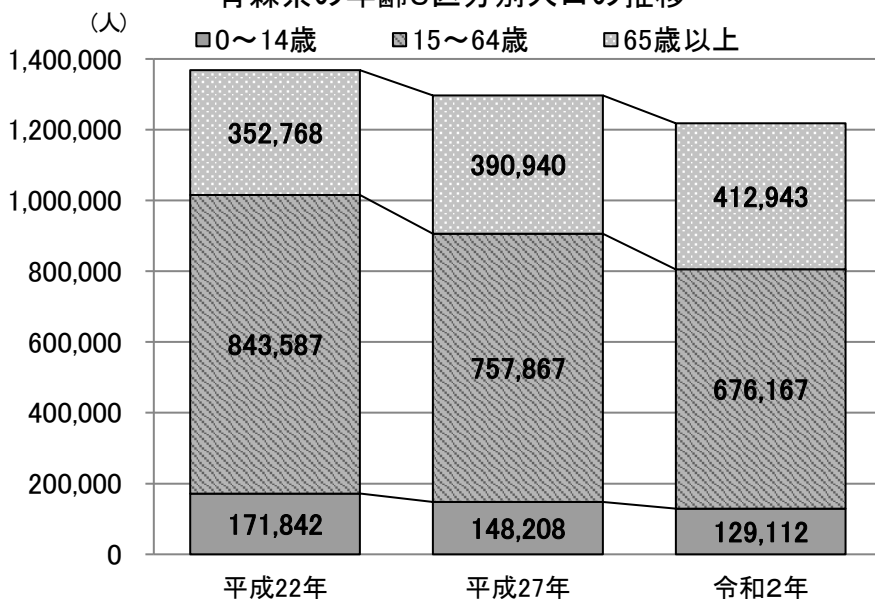
3市とも年少人口、生産年齢人口が減少し、老年人口が増加するという傾向は県と同一であり、県よりは緩やかではあるものの、県全体で少子高齢化が進んでいることが分かります。

青森県及び県内3市(八戸市、青森市、弘前市)の人口比較

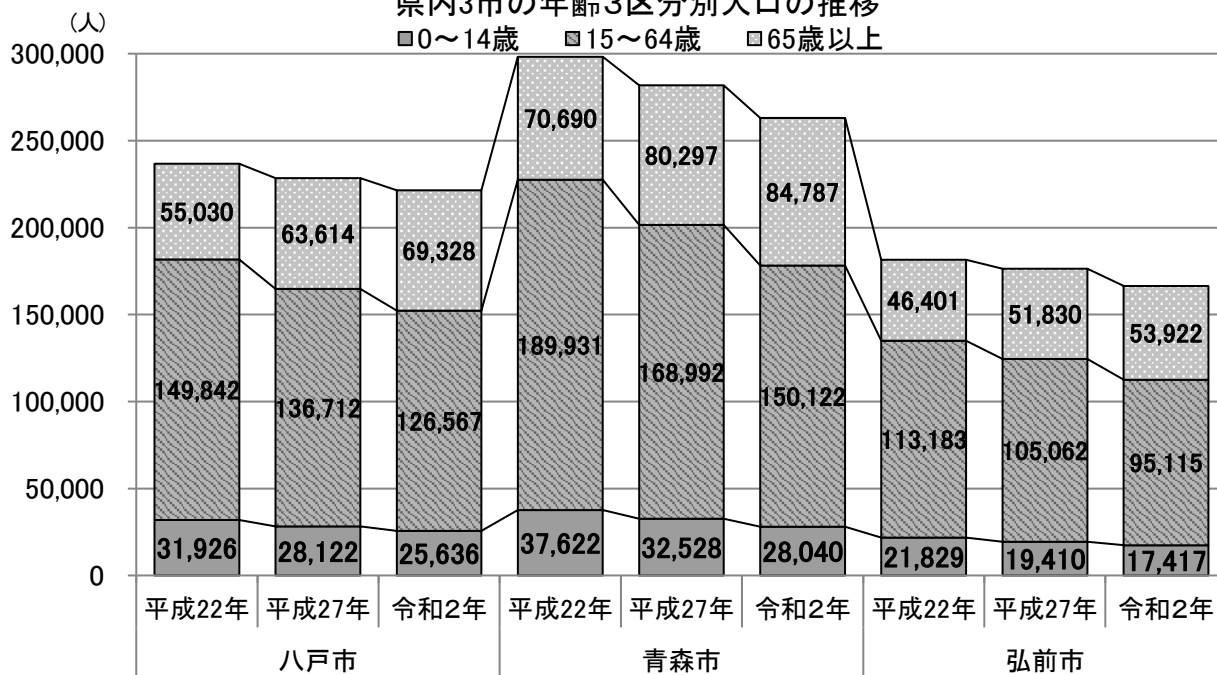
年齢 (3区分)	令和2年											
	青森県			八戸市			青森市			弘前市		
	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女
総数	1,237,984	583,402	654,582	223,415	106,818	116,597	275,192	128,049	147,143	168,466	77,251	91,215
0～14歳	129,112	65,898	63,214	25,636	13,155	12,481	28,040	14,189	13,851	17,417	8,953	8,464
15～64歳	676,167	336,887	339,280	126,567	63,266	63,301	150,122	72,936	77,186	95,115	45,946	49,169
65歳以上	412,943	169,631	243,312	69,328	29,160	40,168	84,787	34,223	50,564	53,922	21,384	32,538
年齢不詳	19,762	10,986	8,776	1,884	1,237	647	12,243	6,701	5,542	2,012	968	1,044
構成比(%) 1)												
0～14歳	10.6	11.5	9.8	11.6	12.5	10.8	10.7	11.7	9.8	10.5	11.7	9.4
15～64歳	55.5	58.9	52.5	57.1	59.9	54.6	57.1	60.1	54.5	57.1	60.2	54.5
65歳以上	33.9	29.6	37.7	31.3	27.6	34.6	32.2	28.2	35.7	32.4	28.0	36.1
年少人口指数	19.1	19.6	18.6	20.3	20.8	19.7	18.7	19.5	17.9	18.3	19.5	17.2
老年人口指数	61.1	50.4	71.7	54.8	46.1	63.5	56.5	46.9	65.5	56.7	46.5	66.2
老年化指数	319.8	257.4	384.9	270.4	221.7	321.8	302.4	241.2	365.1	309.6	238.8	384.4
	令和2年-平成27年 人口増減											
総数	△70,281	△31,292	△38,989	△7,842	△3,675	△4,167	△12,456	△5,511	△6,945	△8,945	△4,116	△4,829
0～14歳	△19,096	△9,763	△9,333	△2,486	△1,278	△1,208	△4,488	△2,383	△2,105	△1,993	△1,008	△985
15～64歳	△81,700	△36,909	△44,791	△10,145	△4,550	△5,595	△18,870	△8,569	△10,301	△9,947	△4,369	△5,578
65歳以上	22,003	10,794	11,209	5,714	2,564	3,150	4,490	1,958	2,532	2,092	901	1,191
	平成27年											
総数	1,308,265	614,694	693,571	231,257	110,493	120,764	287,648	133,560	154,088	177,411	81,367	96,044
0～14歳	148,208	75,661	72,547	28,122	14,433	13,689	32,528	16,572	15,956	19,410	9,961	9,449
15～64歳	757,867	373,796	384,071	136,712	67,816	68,896	168,992	81,505	87,487	105,062	50,315	54,747
65歳以上	390,940	158,837	232,103	63,614	26,596	37,018	80,297	32,265	48,032	51,830	20,483	31,347
年齢不詳	11,250	6,400	4,850	2,809	1,648	1,161	5,831	3,218	2,613	1,109	608	501
構成比(%) 1)												
0～14歳	11.4	12.4	10.5	12.3	13.3	11.4	11.5	12.7	10.5	11.0	12.3	9.9
15～64歳	58.4	61.4	55.8	59.8	62.3	57.6	60.0	62.5	57.8	59.6	62.3	57.3
65歳以上	30.1	26.1	33.7	27.8	24.4	31.0	28.5	24.8	31.7	29.4	25.4	32.8
年少人口指数	19.6	20.2	18.9	20.6	21.3	19.9	19.2	20.3	18.2	18.5	19.8	17.3
老年人口指数	51.6	42.5	60.4	46.5	39.2	53.7	47.5	39.6	54.9	49.3	40.7	57.3
老年化指数	263.8	209.9	319.9	226.2	184.3	270.4	246.9	194.7	301.0	267.0	205.6	331.7
	平成27年-平成22年 人口増減											
総数	△65,074	△31,447	△33,627	△6,358	△2,847	△3,511	△11,872	△5,524	△6,348	△6,062	△2,697	△3,365
0～14歳	△23,634	△11,924	△11,710	△3,804	△1,869	△1,935	△5,094	△2,567	△2,527	△2,419	△1,181	△1,238
15～64歳	△85,720	△41,092	△44,628	△13,130	△6,100	△7,030	△20,939	△9,739	△11,200	△8,121	△3,442	△4,679
65歳以上	38,172	18,201	19,971	8,584	3,912	4,672	9,607	4,363	5,244	5,429	2,432	2,997
	平成22年											
総数	1,373,339	646,141	727,198	237,615	113,340	124,275	299,520	139,084	160,436	183,473	84,064	99,409
0～14歳	171,842	87,585	84,257	31,926	16,302	15,624	37,622	19,139	18,483	21,829	11,142	10,687
15～64歳	843,587	414,888	428,699	149,842	73,916	75,926	189,931	91,244	98,687	113,183	53,757	59,426
65歳以上	352,768	140,636	212,132	55,030	22,684	32,346	70,690	27,902	42,788	46,401	18,051	28,350
年齢不詳	5,142	3,032	2,110	817	438	379	1,277	799	478	2,060	1,114	946
構成比(%) 1)												
0～14歳	12.6	13.6	11.6	13.5	14.4	12.6	12.6	13.8	11.6	12.0	13.4	10.9
15～64歳	61.7	64.5	59.1	63.3	65.5	61.3	63.7	66.0	61.7	62.4	64.8	60.4
65歳以上	25.8	21.9	29.3	23.2	20.1	26.1	23.7	20.2	26.7	25.6	21.8	28.8
年少人口指数	20.4	21.1	19.7	21.3	22.1	20.6	19.8	21.0	18.7	19.3	20.7	18.0
老年人口指数	41.8	33.9	49.5	36.7	30.7	42.6	37.2	30.6	43.4	41.0	33.6	47.7
老年化指数	205.3	160.6	251.8	172.4	139.1	207.0	187.9	145.8	231.5	212.6	162.0	265.3
	令和2年-平成22年 人口増減											
総数	△135,355	△62,739	△72,616	△14,200	△6,522	△7,678	△24,328	△11,035	△13,293	△15,007	△6,813	△8,194
0～14歳	△42,730	△21,687	△21,043	△6,290	△3,147	△3,143	△9,582	△4,950	△4,632	△4,412	△2,189	△2,223
15～64歳	△167,420	△78,001	△89,419	△23,275	△10,650	△12,625	△39,809	△18,308	△21,501	△18,068	△7,811	△10,257
65歳以上	60,175	28,995	31,180	14,298	6,476	7,822	14,097	6,321	7,776	7,521	3,333	4,188

1) 年齢「不詳」を除いて算出

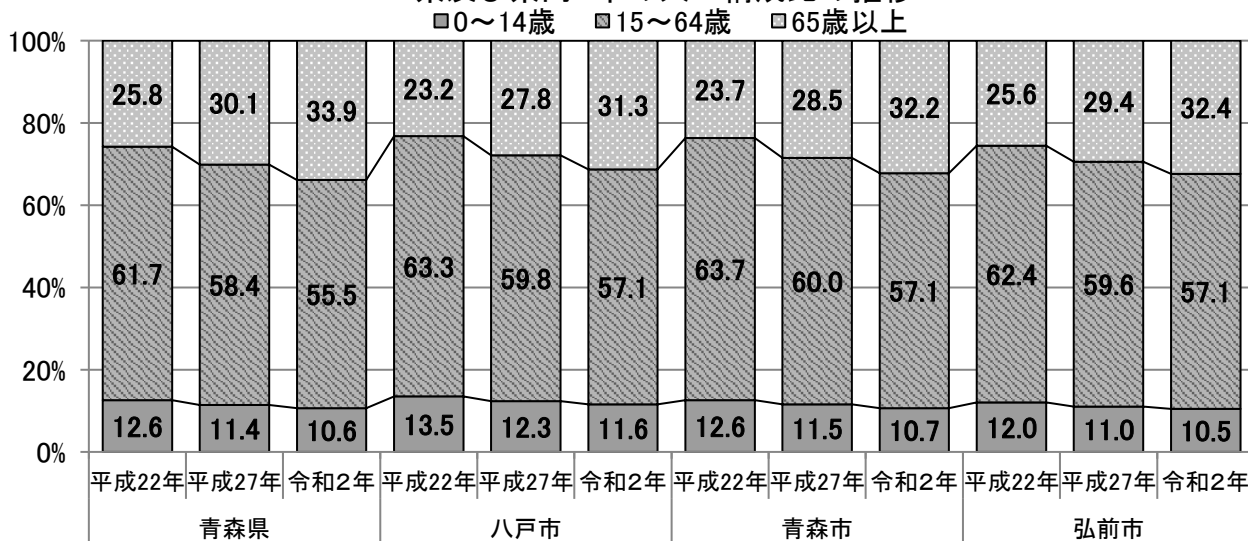
青森県の年齢3区分別人口の推移



県内3市の年齢3区分別人口の推移



県及び県内3市の人口構成比の推移



## VI 従業地・通学地別人口

### (1) 昼夜間人口の比較

昼夜間人口比率(夜間人口 100 人当たりの昼間人口の比率)をみると、青森県内3市の中では、弘前市が106.7と最も高く、次いで八戸市の104.4、青森市の101.4となっています。

また、当市の近隣市町村では、階上町の77.8が最も低く、次いでおいらせ町の83.9、南部町の85.2、六戸町の85.5、岩手県洋野町の87.0、五戸町の88.9、新郷村の94.0、岩手県軽米町の94.3、田子町の96.9、三戸町の98.6となっており、夜間人口が昼間人口を上回っています。

青森県内3市と近隣市町村の昼夜間人口

地域	夜間人口 1)		昼間人口 1) 2)		昼夜間人口比率	
	令和2年	平成27年	令和2年	平成27年	令和2年	平成27年
青森県	1,237,984	1,308,265	1,236,753	1,306,283	99.9	99.8
青森市	275,192	287,648	278,910	291,843	101.4	101.5
弘前市	168,466	177,411	179,790	190,230	106.7	107.2
<b>八戸市</b>	<b>223,415</b>	<b>231,257</b>	<b>233,149</b>	<b>241,823</b>	<b>104.4</b>	<b>104.6</b>
六戸町	10,447	10,423	8,929	9,028	85.5	86.6
おいらせ町	24,273	24,222	20,373	20,551	83.9	84.8
三戸町	9,082	10,135	8,957	9,993	98.6	98.6
五戸町	16,042	17,433	14,262	15,745	88.9	90.3
田子町	4,968	5,554	4,816	5,432	96.9	97.8
南部町	16,809	18,312	14,329	15,501	85.2	84.6
階上町	13,496	14,025	10,500	10,593	77.8	75.5
新郷村	2,197	2,509	2,066	2,341	94.0	93.3
岩手県軽米町	8,421	9,333	7,942	8,722	94.3	93.5
岩手県洋野町	15,091	16,693	13,131	14,303	87.0	85.7

1) 労働力状態「不詳」を含む。

2) 従業地・通学地「不詳」で、当地に常住している者を含む。

### (2) 従業・通学による他市町村との流出入状況

当市から他市町村への流出状況を見ると、流出人数は、おいらせ町への1,556人が最も多く、次いで階上町への1,145人、五戸町への1,029人となっています。

一方、他市町村から当市への流入状況は、昼夜間人口比率が最も低かった階上町から3,971人と最も多く、次いでおいらせ町の2,902人、南部町の2,791人となっています。

また、岩手県北地方の洋野町、軽米町、久慈市、二戸市が、流出入共に上位に入っており、当市と岩手県北地方との人的・経済的なつながりが分かります。

#### 従業・通学による流出入状況(上位15市町村)

他市町村へ流出 (常住地:八戸市)		他市町村から流入 (常住地:他市町村)	
市町村名	人数	市町村名	人数
おいらせ町	1,556	階上町	3,971
階上町	1,145	おいらせ町	2,902
五戸町	1,029	南部町	2,791
南部町	1,015	五戸町	2,543
三沢市	962	十和田市	1,263
十和田市	724	三沢市	1,216
六ヶ所村	499	岩手県洋野町	1,202
青森市	390	三戸町	514
岩手県洋野町	297	六戸町	498
三戸町	268	青森市	419
岩手県盛岡市	219	岩手県軽米町	413
六戸町	184	東北町	215
岩手県軽米町	180	岩手県久慈市	202
岩手県久慈市	144	岩手県二戸市	192
岩手県二戸市	138	岩手県盛岡市	161